

令和6年度
人権に関する市民の意識調査報告書
概要版

高 知 市
2025（令和7）年7月

目 次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
3. 回収状況	1
4. 注意事項	2
II 回答者の属性	3
1. 回答者の属性	3
(1) 年代	3
(2) 性別	3
III 調査結果	4
1. 人権全般に関する意識	4
(1) 問1 人権が尊重されているまちだと思うか	4
(2) 問2 人権意識の変化	5
(3) 問3 関心のある人権問題	6
(4) 問4 人権侵害の経験	7
(5) 問4-1 人権が侵害されたと思った内容	8
(6) 問4-2 人権侵害を受けた時の対処	9
(7) 問4-3 人権侵害を受けた時の相談先	10
(8) 問4-4 人権侵害を受けても相談しなかった理由	11
2. 部落差別(同和問題)	12
(1) 問5 部落差別(同和問題)を知っているか	12
(2) 問5-1 部落差別(同和問題)を知ったきっかけ	13
(3) 問5-2 部落差別(同和問題)についての学習経験	14
(4) 問5-3 現在でも社会の中に部落差別(同和問題)は存在すると思うか	15
(5) 問5-4 同和地区や同和地区出身者ということを意識することがあるか	16
(6) 問5-5 家族の結婚相手が同和地区に住む人や同和地区出身者だとわかった場合の対応	17
(7) 問5-6 現在でも部落差別(同和問題)が存在している原因	18
(8) 問5-7 部落差別(同和問題)解決のために必要だと思うもの	19

3. 女性.....	20
(1)問6 女性の人権に関して特に問題があると思うこと.....	20
(2)問7 女性の人権を守るために必要だと思うこと.....	21
4. 子ども.....	22
(1)問8 子どもの人権に関して特に問題があると思うこと.....	22
(2)問9 子どもの人権を守るために必要だと思うこと.....	23
5. 高齢者.....	24
(1)問10 高齢者の人権に関して特に問題があると思うこと.....	24
(2)問11 高齢者の人権を守るために必要だと思うこと.....	25
6. 障がいのある人.....	26
(1)問12 障がいのある人の人権に関して特に問題があると思うこと.....	26
(2)問13 障がいのある人の人権を守るために必要だと思うこと.....	27
7. 外国人.....	28
(1)問14 外国人の人権に関して特に問題があると思うこと.....	28
(2)問15 外国人の人権を守るために必要だと思うこと.....	29
8. 感染症患者など.....	30
(1)問16 感染症患者などの人権に関して特に問題があると思うこと.....	30
(2)問17 感染症患者などの人権を守るために必要だと思うこと.....	31
9. 性的指向・性自認.....	32
(1)問18 性的少数者の人権に関して特に問題があると思うこと.....	32
(2)問19 性的少数者についての考え.....	33
(3)問20 性的少数者の人権を守るために必要だと思うこと.....	34
(4)問21 「高知市パートナーシップ登録制度」の認知度.....	35
10. 働く人々の人権.....	36
(1)問22 職場における人権に関して特に問題があると思うこと.....	36
(2)問23 働く人々の人権を守るために必要だと思うこと.....	37
11. 犯罪被害者など.....	37
(1)問24 犯罪被害者などの人権に関して特に問題があると思うこと.....	38
(2)問25 犯罪被害者などの人権を守るために必要だと思うこと.....	39
12. インターネットによる人権侵害.....	40
(1)問26 インターネットにおける人権侵害に関して特に問題があると思うこと.....	40
(2)問27 インターネットにおける人権侵害についての考え.....	41

13. 災害と人権	42
(1)問 28 災害時の人権に関して特に問題があると思うこと.....	42
(2)問 29 災害時に人権を守るために必要だと思うこと	43
14. 人権尊重の社会の実現に向けた取り組みについて.....	44
(1)問 30 人権尊重の考え方に強い影響を受けたもの.....	44
(2)問 30—1 人権尊重の考え方に強い影響を受けたものの内容.....	45
(3)問 31 人権尊重の社会の実現のために必要だと思うこと.....	48
(4)問 32 人権に関する法律や取り組みなどの認知度.....	49

I 調査概要

I 調査概要

1. 調査の目的

高知市民の人権に関する意識の現状把握を行い、人権施策の効果的促進を図るための基礎資料とすることを目的に、「人権に関する市民の意識調査」を実施した。

2. 調査の方法

- ・調査対象 高知市在住の満 18 歳以上の市民 3,000 人(女性 1,615 人、男性 1,385 人)
- ・抽出方法 住民基本台帳マスターファイルより無作為抽出
- ・抽 出 日 令和 6 年 10 月 23 日

<年代別性別抽出状況>

年代	総数	女性	男性
10 代	61	31	30
20 代	311	152	159
30 代	330	167	163
40 代	472	242	230
50 代	524	272	252
60 代	443	234	209
70 代	484	268	216
80 代以上	375	249	126
合計	3,000	1,615	1,385

- ・調査方法 郵送調査法
- ・調査期間 令和 6 年 11 月 8 日～令和 6 年 11 月 28 日

3. 回収状況

- ・有効回収数 895 人(女性 531 人、男性 350 人、性別無回答・その他 14 人)
- ・有効回収率 29.8%(女性 32.9%、男性 25.3%)
※年代不明、性別その他無回答を含めた回収率

<年代別性別回収状況>

年代	女性			男性			無回答・ その他 回答数
	抽出数	回答数	回答率	抽出数	回答数	回答率	
10 代	31	8	25.8%	30	5	16.7%	-
20 代	152	35	23.0%	159	21	13.2%	3
30 代	167	52	31.1%	163	31	19.0%	1
40 代	242	68	28.1%	230	41	17.8%	3
50 代	272	100	36.8%	252	67	26.6%	3
60 代	234	105	44.9%	209	80	38.3%	-
70 代	268	107	39.9%	216	68	31.5%	3
80 代以上	249	54	21.7%	126	37	29.4%	-
無回答・その他	-	2	-	-	-	-	1
合計	1,615	531	32.9%	1,385	350	25.3%	14

4. 注意事項

- 図表中の「n」(Number of samples の略)は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比(%)を算出するための基数である。
- 図表中の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入している。
- 複数回答の設問は、回答が2つ以上ありうるので、合計は100%を超えることがある。なお、複数回答を求める質問についての図表上の表記は、以下のとおりである。
「MA%」(Multiple Answer)＝回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
「3LA%」(3 Limited Answer)＝回答選択肢のなかからあてはまるものを3つ以内で選択する場合
- 各設問の集計は、不明・無回答を含めて集計している。
- 表内において、**上位1位**、**上位2位**には色付けをしている。また、全体と比べて10ポイント以上多い場合には△、10ポイント以上少ない場合には▼の記号を付けている。
- 本調査において比較対象としている「前回調査」の概要は以下のとおりである。

令和2年度 人権に関する市民の意識調査

調査対象	高知市在住の満20歳から79歳までの男女3,000人 (女性1,564人、男性1,436人)
調査方法	郵送調査法
調査期間	令和2年6月30日～令和2年7月20日
有効回収数	1,143人(女性688人、男性419人、性別無回答36人)
有効回収率	38.1%(女性44.0%、男性29.2%) ※年代、性別不明を含めた回収率

Ⅱ 回答者の属性

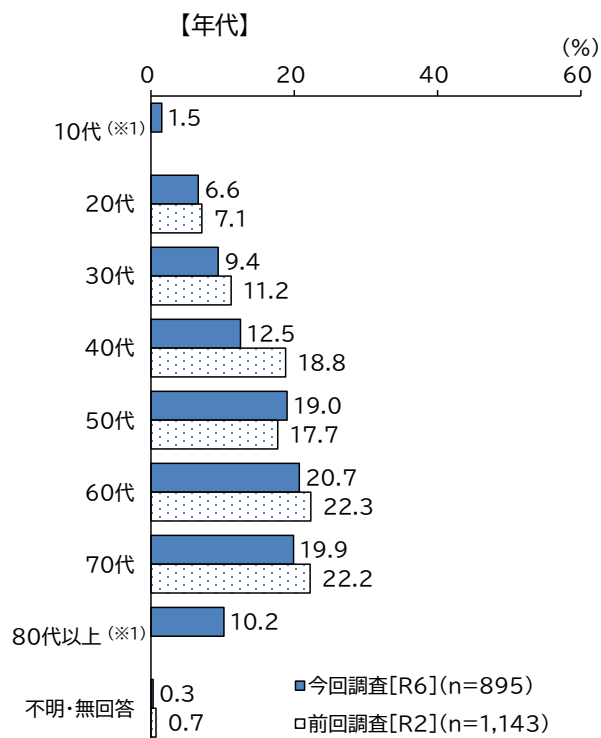
Ⅱ 回答者の属性

1. 回答者の属性

(1)年代

【全体】

- 年代について、「60代」が20.7%で最も多く、次いで「70代」が19.9%、「50代」が19.0%となっている。
- 前回調査と比較すると、前回調査では調査対象外の「80代以上」が10.2%含まれ、60代以上の割合が今回調査50.8%と、6.3ポイント多くなっている。

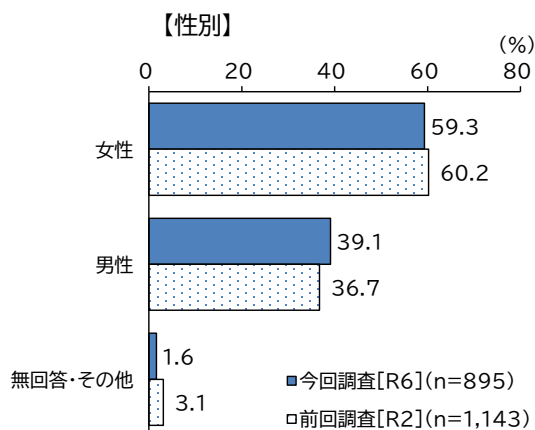


(※1) 前回調査では20代～70代を調査対象としていた。

(2)性別

【全体】

- 性別について、「女性」が59.3%、「男性」が39.1%、「無回答・その他」が1.6%となっている。
- 前回調査と比較すると、「男性」が2.4ポイント多くなっている。



Ⅲ 調査結果

Ⅲ 調査結果

1. 人権全般に関する意識

(1)問1 人権が尊重されているまちだと思うか

問1 あなたは、「今の高知市は、市民一人ひとりの人権が尊重されているまちである」と思いますか。
(○は1つ)

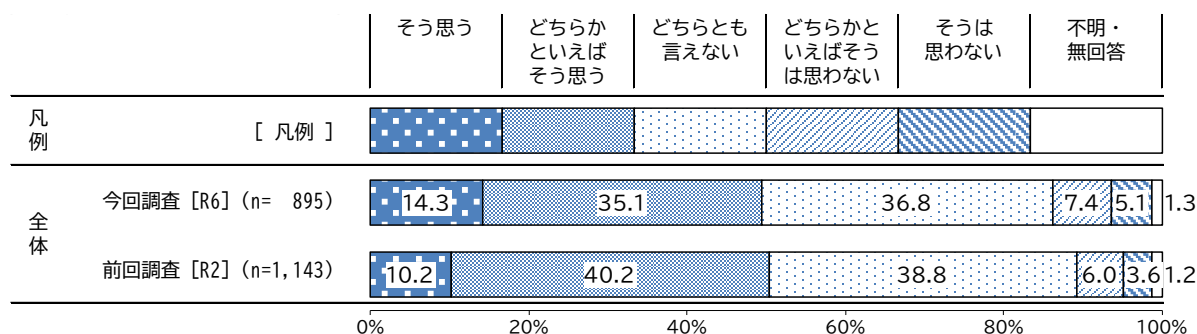
【全体】

- 人権が尊重されているまちだと思うかについて、「どちらとも言えない」が36.8%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が35.1%、「そう思う」が14.3%となっている。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“思う”は49.4%、「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」を合わせた“思わない”は12.5%となっている。
- 前回調査と比較すると、“思う”(R2:50.4%)は1ポイント少なく、“思わない”(R2:9.6%)は2.9ポイント多くなっている。

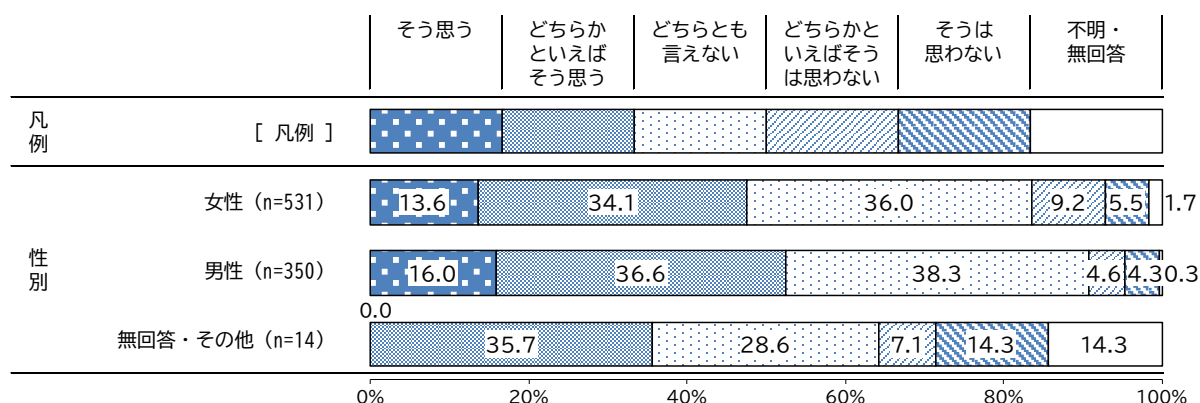
【性別】

- 女性・男性ともに「どちらとも言えない」が最も多いが、“思う”は男性の方が多く、“思わない”は女性の方が多くなっている。

【人権が尊重されているまちだと思うか】



【性別 人権が尊重されているまちだと思うか】



(2)問2 人権意識の変化

問2 あなたは、「市民一人ひとりの人権意識は、5～6年前に比べて高くなっている」と思いますか。
(○は1つ)

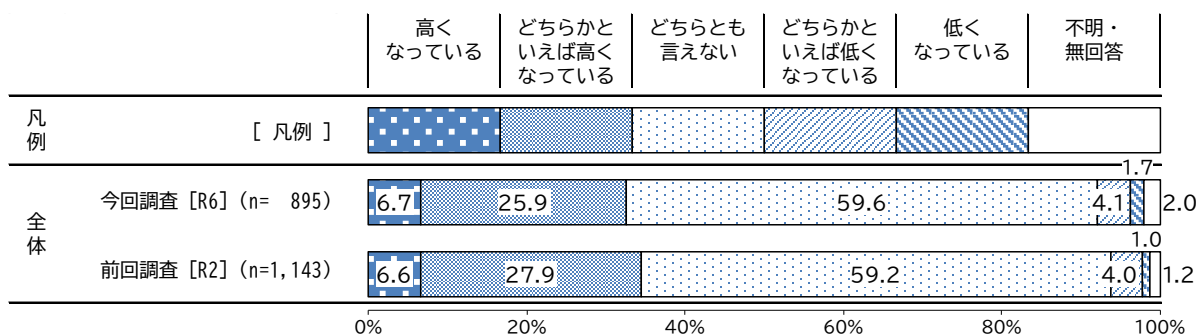
【全体】

- 人権意識の変化について、「どちらとも言えない」が 59.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば高くなっている」が 25.9%、「高くなっている」が 6.7%となっている。「高くなっている」「どちらかといえば高くなっている」を合わせた“高い”は 32.6%となっている。「どちらかといえば低くなっている」「低くなっている」を合わせた“低い”は 5.8%となっている。
- 前回調査と比較すると、“高い”(R2:34.5%)は 1.9 ポイント少なく、“低い”(R2:5.0%)は 0.8 ポイント多くなっている。

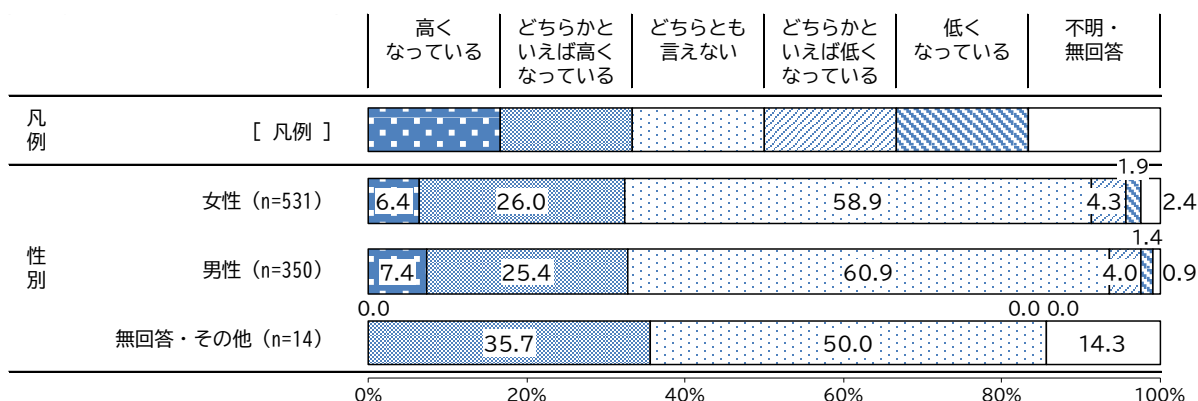
【性別】

- 性別で見ると、女性・男性ともに「どちらとも言えない」が最も多く、“高い”と“低い”の割合を含めて、ほとんど違いがみられない。

【人権意識の変化】



【性別 人権意識の変化】

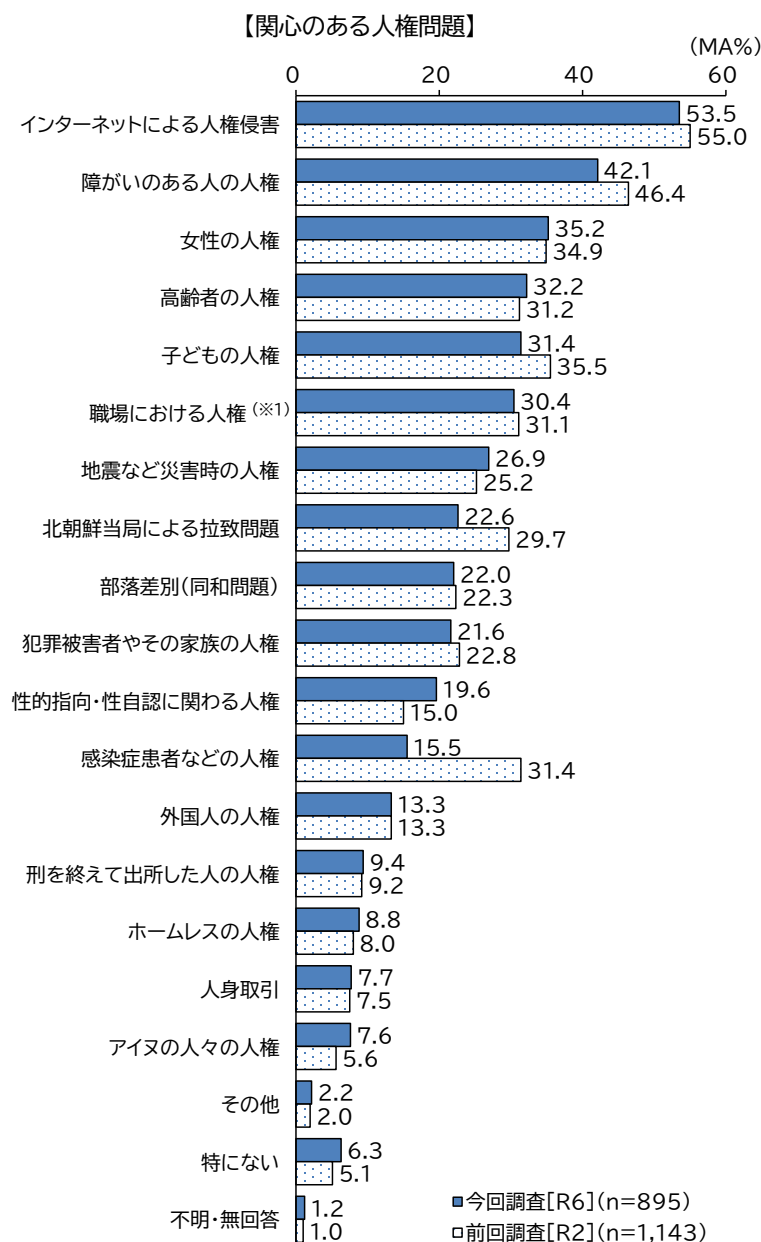


(3)問3 関心のある人権問題

問3 あなたが関心のある人権問題は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

【全体】

- 関心のある人権問題について、「インターネットによる人権侵害」が 53.5%で最も多く、次いで「障がいのある人の人権」が42.1%、「女性の人権」が35.2%となっている。
- 前回調査と比較すると、「感染者患者などの人権」が 15.9 ポイント、「北朝鮮当局による拉致問題」が 7.1 ポイント、「障がいのある人の人権」が 4.3 ポイント、「子どもの人権」が 4.1 ポイント少なく、「性的指向・性自認に関わる人権」が 4.6 ポイント多くなっている。



(※1) 前回調査では、「職場の人権」としていた。

(4)問4 人権侵害の経験

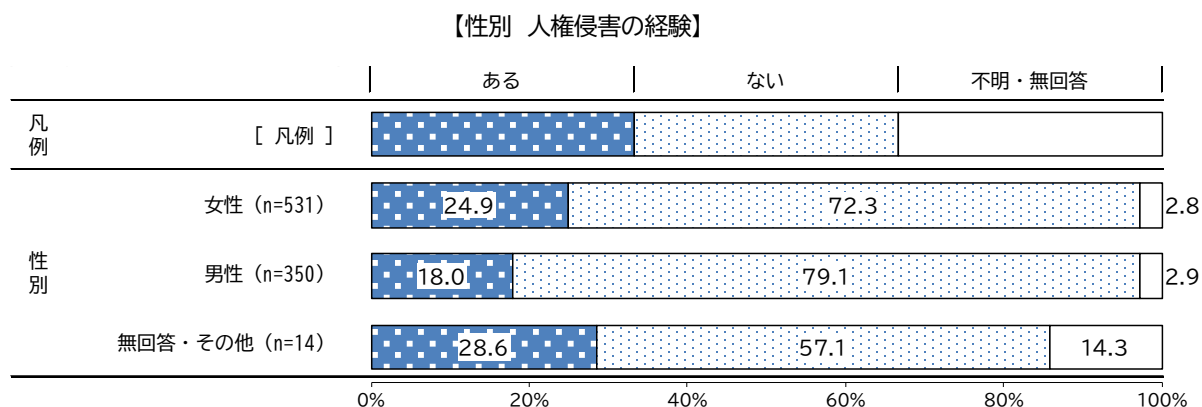
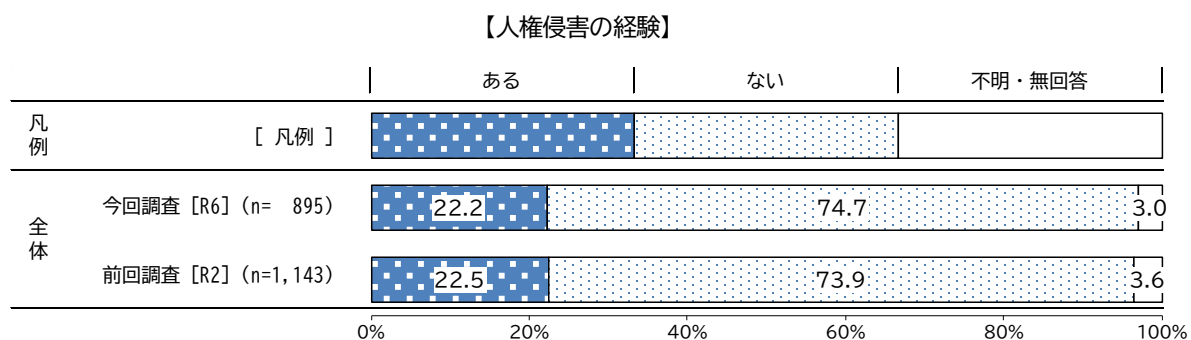
問4 あなた自身やご家族の人権が侵害された、あるいはそう感じたことがありますか。(○は1つ)

【全体】

- 人権侵害の経験について、「ある」が22.2%、「ない」が74.7%となっている。
- 前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

【性別】

- 性別でみると、「ある」は女性(24.9%)の方が、男性(18.0%)より6.9ポイント多くなっている。



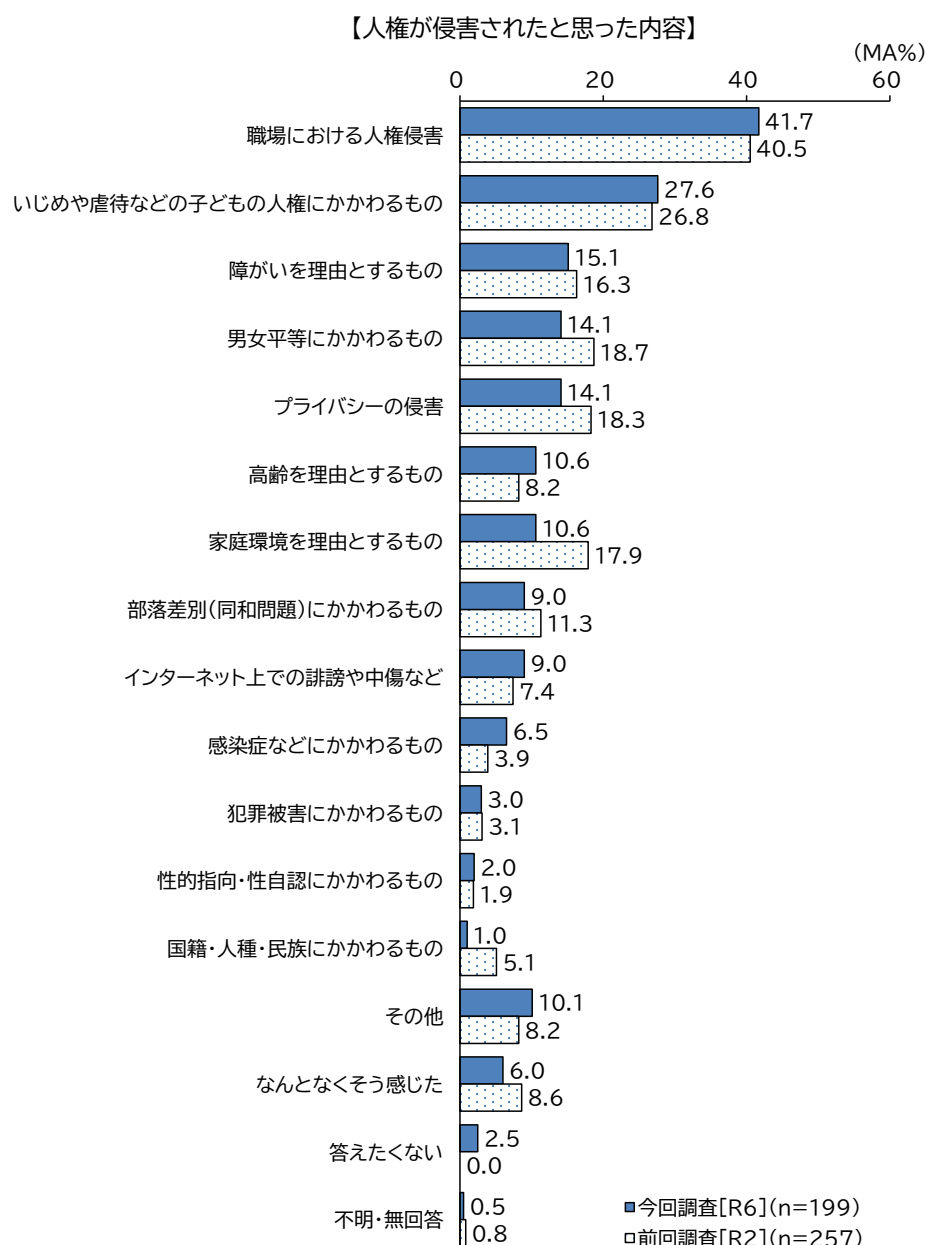
(5)問4-1 人権が侵害されたと思った内容

(問4で「ある」とお答えの方に)

問4-1 それはどのような人権侵害でしたか。(〇はいくつでも)

【全体】

- 人権が侵害されたと思った内容について、「職場における人権侵害」が41.7%で最も多く、次いで「いじめや虐待などの子どもの人権にかかわるもの」が27.6%、「障がい理由とするもの」が15.1%となっている。
- 前回調査と比較すると、「家庭環境を理由とするもの」が7.3ポイント、「男女平等にかかわるもの」が4.6ポイント、「プライバシーの侵害」が4.2ポイント、「国籍・人種・民族にかかわるもの」が4.1ポイント少なくなっている。



(6)問4-2 人権侵害を受けた時の対処

(問4で「ある」とお答えの方に)

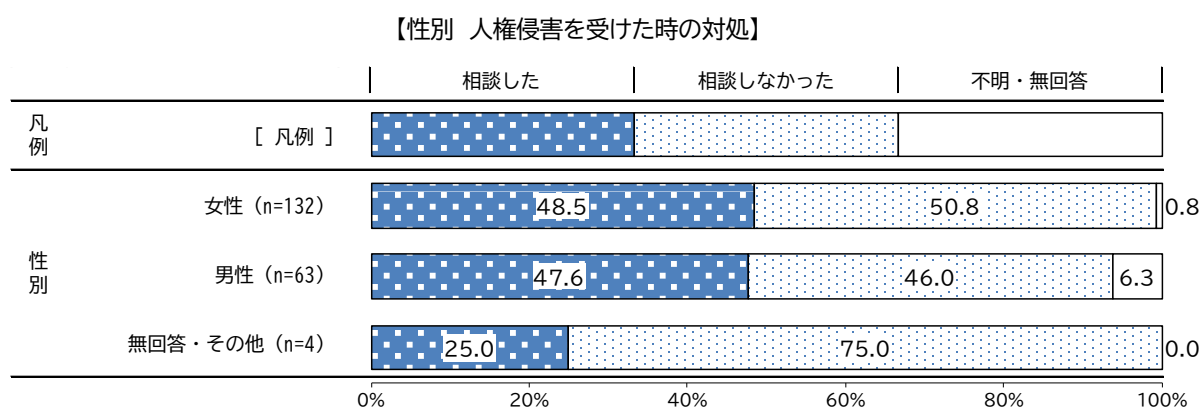
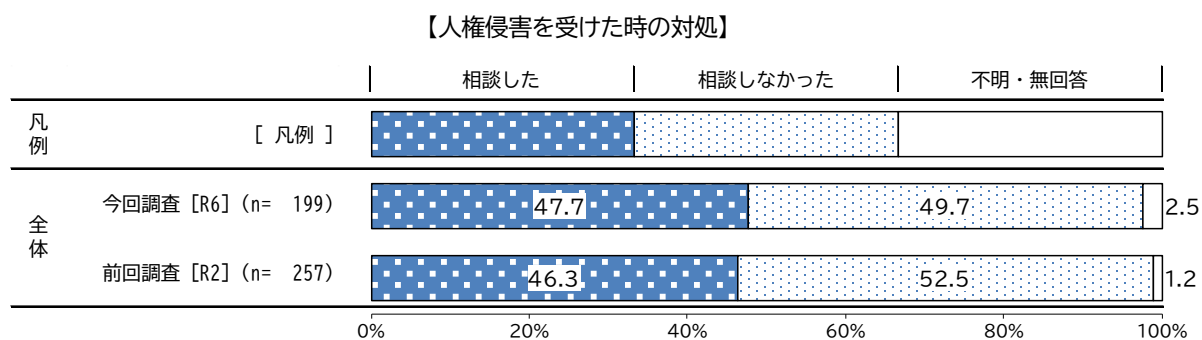
問4-2 その時、誰(どこ)かに相談しましたか。(○は1つ)

【全体】

- 人権侵害を受けた時の対処について、「相談した」が47.7%、「相談しなかった」が49.7%となっている。
- 前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

【性別】

- 性別でみると、女性は「相談した」が男性よりわずかに多いが、5割以下となっている。



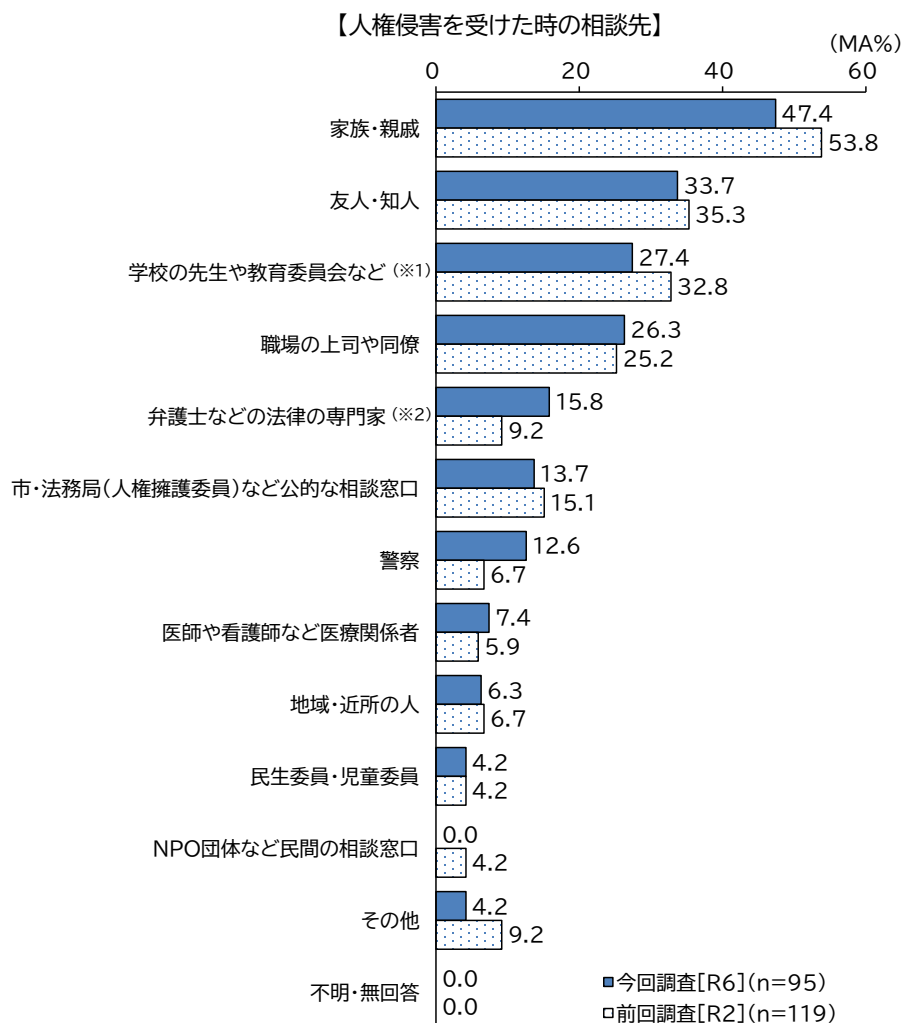
(7)問4-3 人権侵害を受けた時の相談先

(問4-2で「相談した」とお答えの方に)

問4-3 誰(どこ)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

【全体】

- 人権侵害を受けた時の相談先について、「家族・親戚」が 47.4%で最も多く、次いで「友人・知人」が 33.7%、「学校の先生や教育委員会など」が 27.4%となっている。
- 前回調査と比較すると、「家族・親戚」が 6.4 ポイント、「学校の先生や教育委員会など」が 5.4 ポイント、「その他」が 5.0 ポイント、「NPO団体など民間の相談窓口」が 4.2 ポイント少なく、「弁護士などの法律の専門家」が 6.6 ポイント、「警察」が 5.9 ポイント多くなっている。



(※1) 前回調査では、「学校の先生」としていた。

(※2) 前回調査では、「弁護士」としていた。

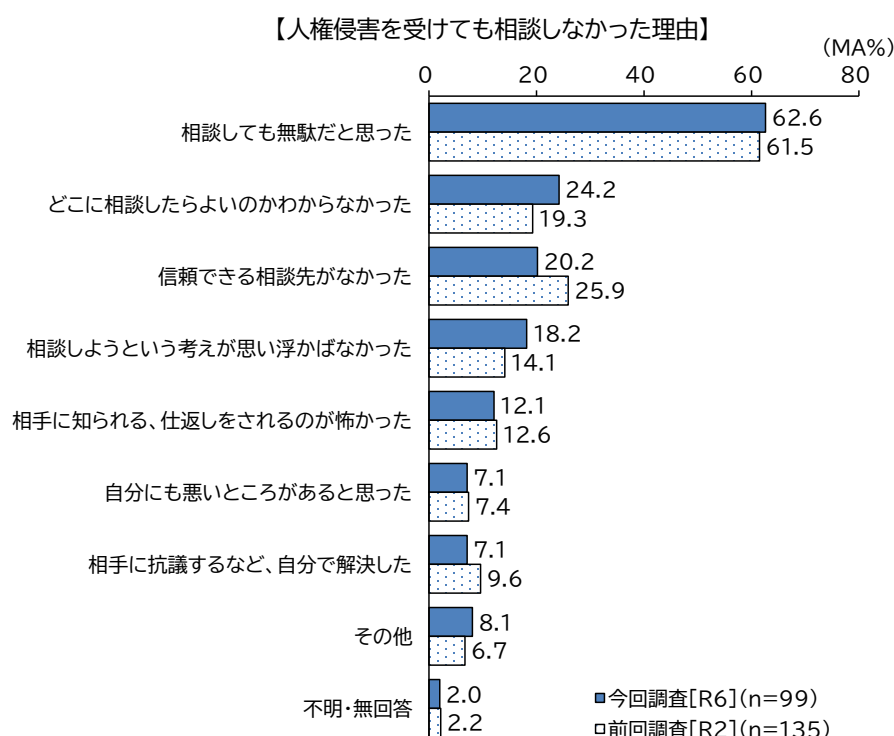
(8)問4-4 人権侵害を受けても相談しなかった理由

(問4-2で「相談しなかった」とお答えの方に)

問4-4 相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

【全体】

- 人権侵害を受けても相談しなかった理由について、「相談しても無駄だと思った」が 62.6%で最も多く、次いで「どこに相談したらよいのかわからなかった」が 24.2%、「信頼できる相談先がなかった」が 20.2%となっている。
- 前回調査と比較すると、「信頼できる相談先がなかった」が 5.7 ポイント少なく、「どこに相談したらよいのかわからなかった」が4.9 ポイント、「相談しようという考えが思い浮かばなかった」が4.1 ポイント多くなっている。



2. 部落差別(同和問題)

(1)問5 部落差別(同和問題)を知っているか

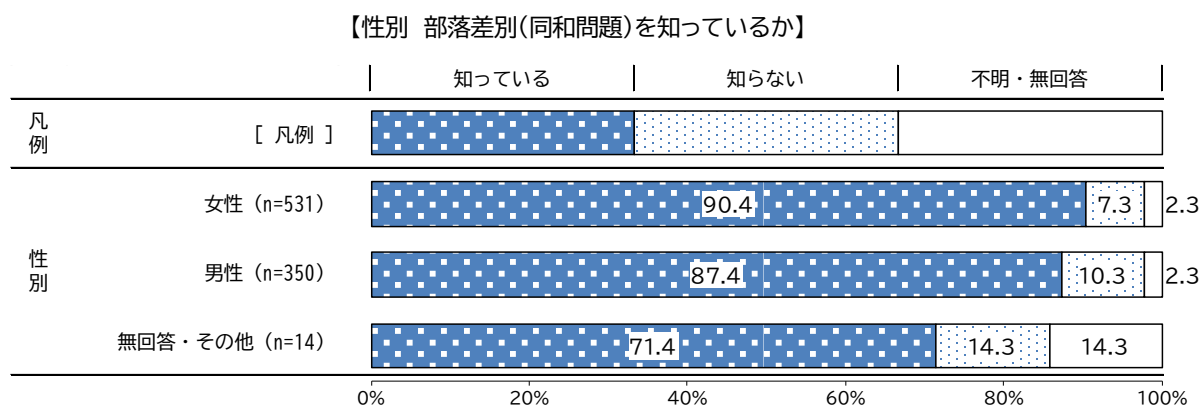
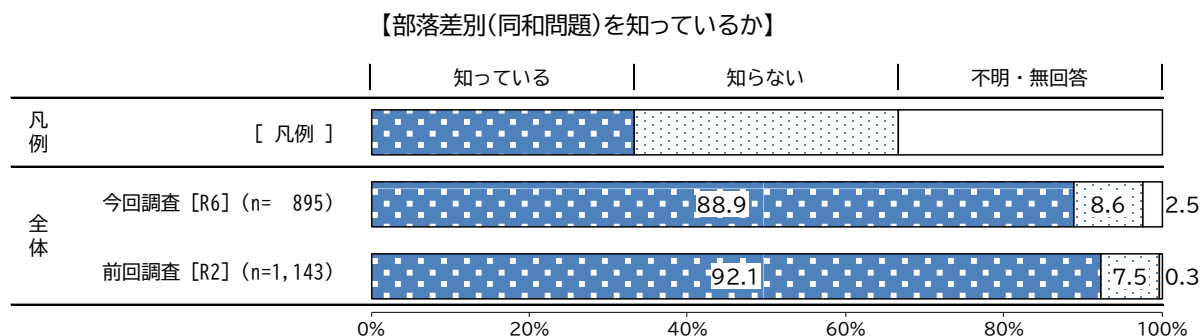
問5 あなたは、部落差別(同和問題)について、知っていますか。(○は1つ)

【全体】

- 部落差別(同和問題)を知っているかについて、「知っている」が88.9%、「知らない」が8.6%となっている。
- 前回調査と比較すると、「知っている」が3.2ポイント少なくなっている。

【性別】

- 性別でみると、女性の方がわずかに「知っている」が3.0ポイント多くなっている。



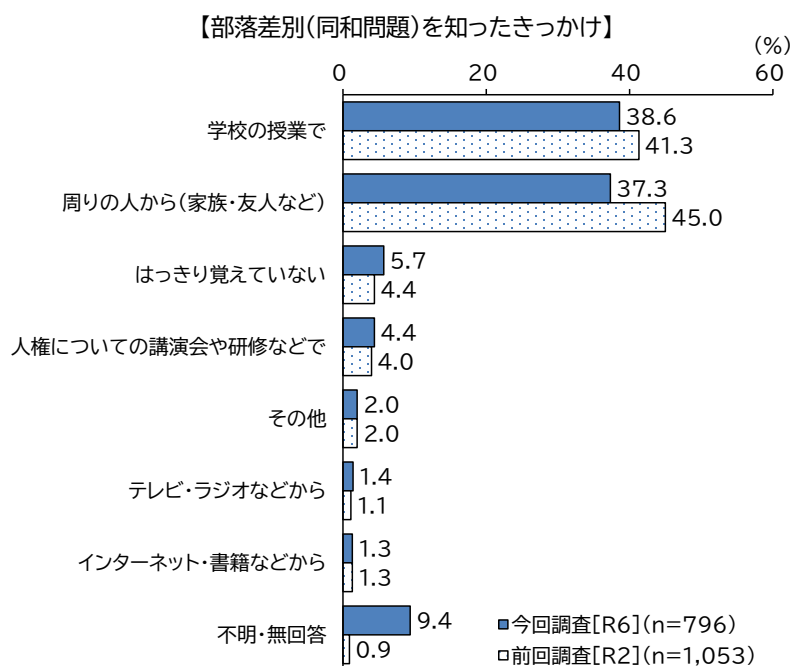
(2)問5－1 部落差別(同和問題)を知ったきっかけ

(問5で「知っている」とお答えの方に)

問5－1 あなたが部落差別(同和問題)について知った、主なきっかけは何ですか。(○は1つ)

【全体】

- 部落差別(同和問題)を知ったきっかけについて、「学校の授業で」が 38.6%で最も多く、次いで「周りの人から(家族・友人など)」が 37.3%、「はっきり覚えていない」が 5.7%となっている。
- 前回調査と比較すると、「周りの人から(家族・友人など)」が 7.7 ポイント、「学校の授業で」が 2.7 ポイント少なくなっている。

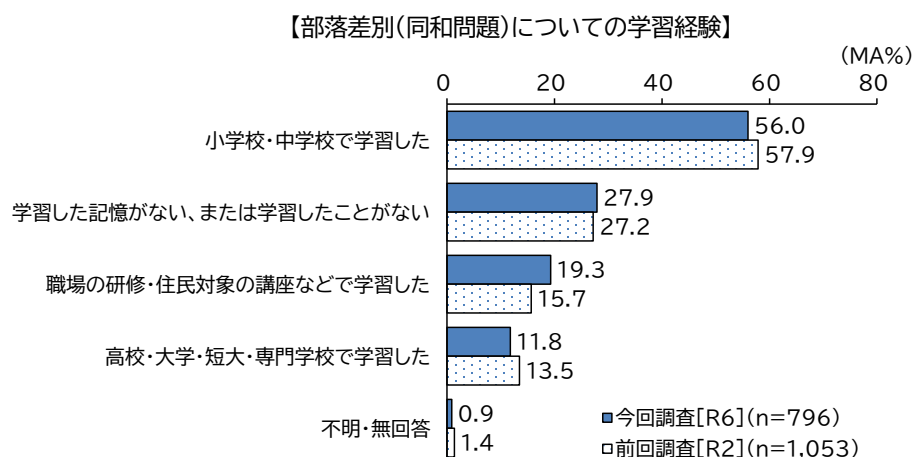


(3)問5-2 部落差別(同和問題)についての学習経験

問5-2 あなたは、部落差別(同和問題)について学校や職場、地域などで、学習したことがありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

【全体】

- 部落差別(同和問題)についての学習経験について、「小学校・中学校で学習した」が 56.0%で最も多く、次いで「学習した記憶がない、または学習したことがない」が 27.9%、「職場の研修・住民対象の講座などで学習した」が 19.3%となっている。
- 前回調査と比較すると、「職場の研修・住民対象の講座などで学習した」が 3.6 ポイント多くなっている。



(4)問5-3 現在でも社会の中に部落差別(同和問題)は存在すると思うか

問5-3 あなたは、現在でも社会の中に部落差別(同和問題)は存在すると思いますか。(○は1つ)

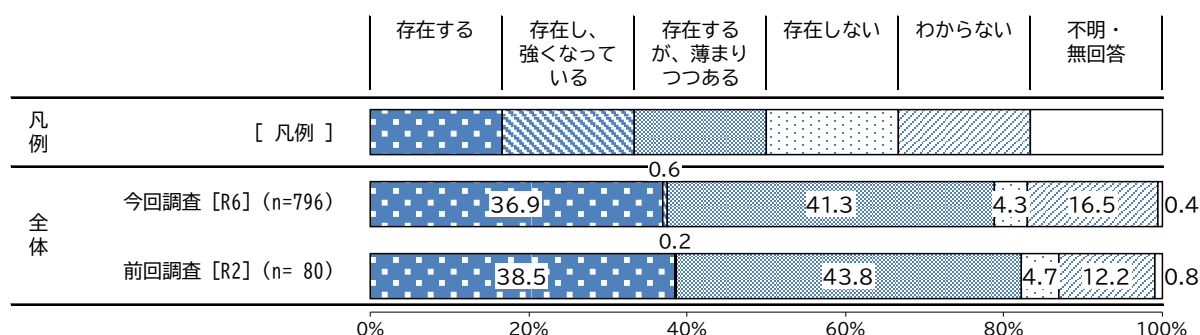
【全体】

- 現在でも社会の中に部落差別(同和問題)は存在すると思うかについて、「存在するが、薄まりつつある」が41.3%で最も多く、次いで「存在する」が36.9%、「わからない」が16.5%となっている。
- 前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。

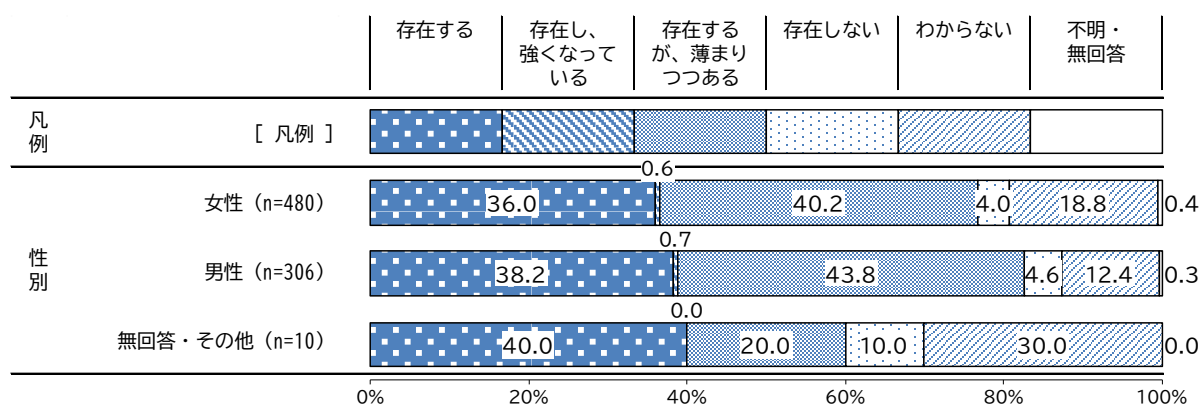
【性別】

- 性別でみると、女性・男性ともに「存在するが、薄まりつつある」が最も多くなっている。

【現在でも社会の中に部落差別(同和問題)は存在すると思うか】



【性別 現在でも社会の中に部落差別(同和問題)は存在すると思うか】

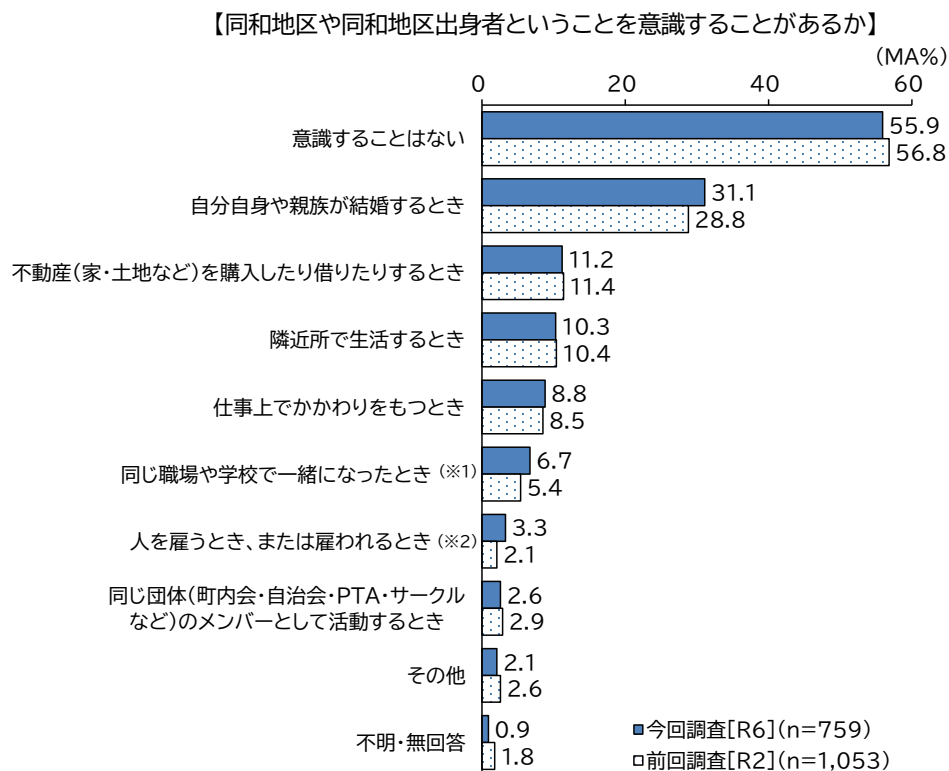


(5)問5-4 同和地区や同和地区出身者ということを意識することがあるか

問5-4 現在、あなた自身は、同和地区に住む人や同和地区出身者ということを意識することがありますか。
(○はいくつでも)

【全体】

- 同和地区や同和地区出身者ということを意識することがあるかについて、「意識することはない」が 55.9%で最も多く、次いで「自分自身や親族が結婚するとき」が 31.1%、「不動産(家・土地など)を購入したり借りたりするとき」が 11.2%となっている。
- 前回調査と比較すると、大きな違いはみられない。



(※1) 前回調査では、「同じ職場で働くとき」としていた。

(※2) 前回調査では、「人を雇うとき」としていた。

(6)問5-5 家族の結婚相手が同和地区に住む人や同和地区出身者だとわかった場合の対応

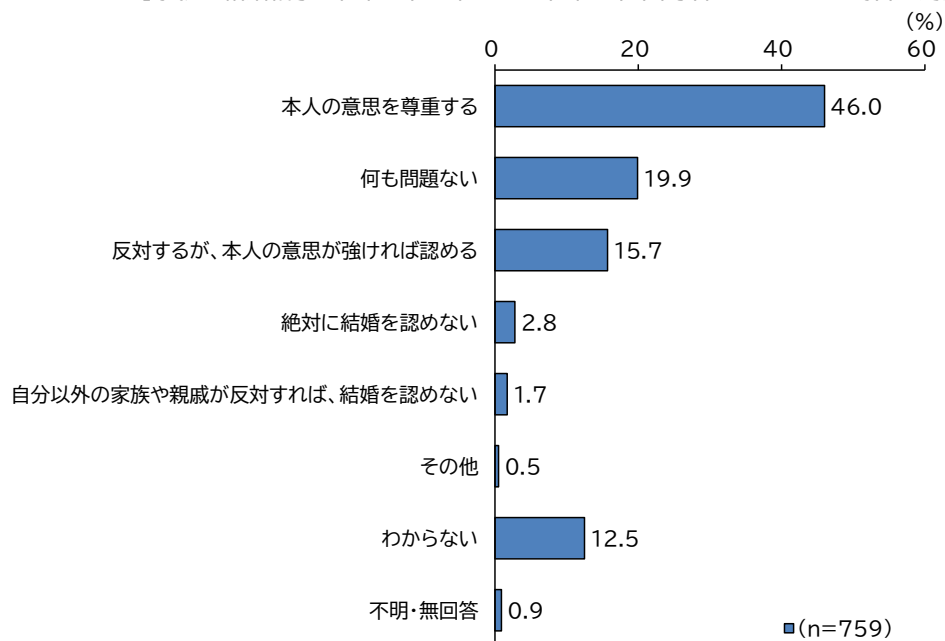
新規設問

問5-5 仮に、あなたのご家族が結婚しようとしている相手が、同和地区に住む人または同和地区出身者だとわかった場合、あなたはどのようにしますか。(○は1つ)

【全体】

- 家族の結婚相手が同和地区に住む人や同和地区出身者だとわかった場合の対応について、「本人の意思を尊重する」が 46.0%で最も多く、次いで「何も問題ない」が 19.9%、「反対するが、本人の意思が強ければ認める」が 15.7%となっている。

【家族の結婚相手が同和地区に住む人や同和地区出身者だとわかった場合の対応】



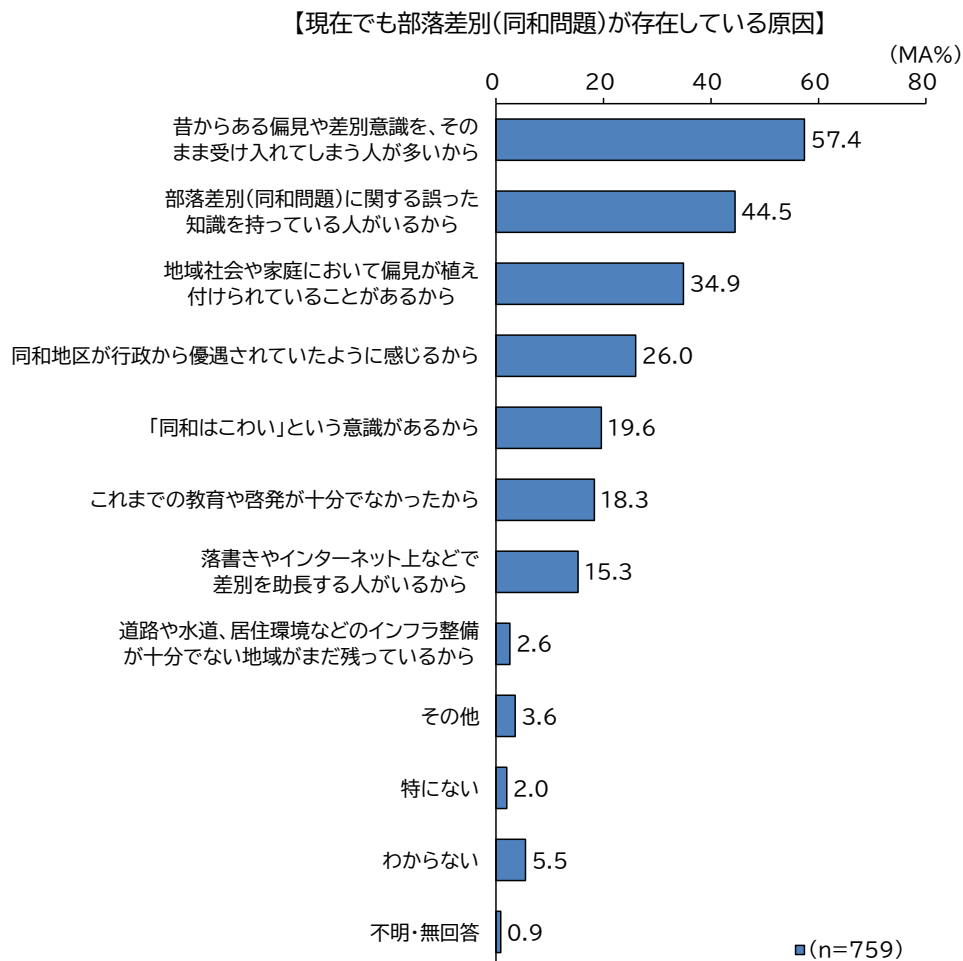
(7)問5－6 現在でも部落差別(同和問題)が存在している原因

新規設問

問5－6 現在でも部落差別(同和問題)が存在している原因はどこにあると思いますか。(○はいくつでも)

【全体】

- 現在でも部落差別(同和問題)が存在している原因について、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」が57.4%で最も多く、次いで「部落差別(同和問題)に関する誤った知識を持っている人があるから」が44.5%、「地域社会や家庭において偏見が植え付けられていることがあるから」が34.9%となっている。

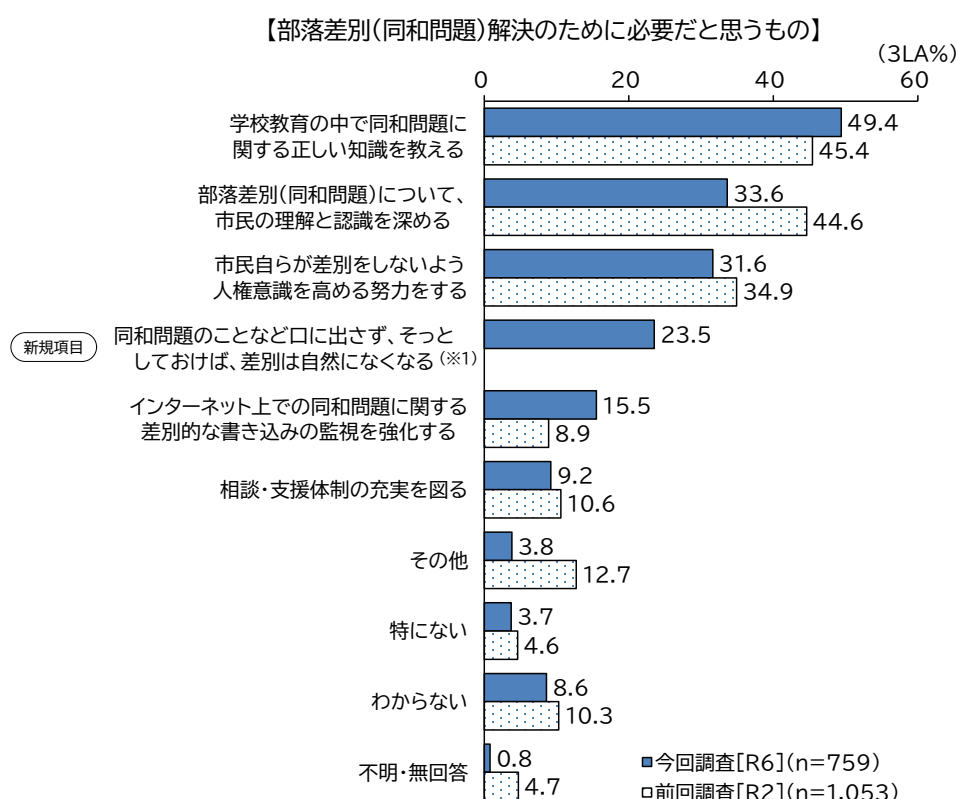


(8)問5-7 部落差別(同和問題)解決のために必要だと思うもの

問5-7 部落差別(同和問題)を解決するために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 部落差別(同和問題)解決のために必要だと思うものについて、「学校教育の中で同和問題に関する正しい知識を教える」が 49.4%で最も多く、次いで「部落差別(同和問題)について、市民の理解と認識を深める」が 33.6%、「市民自らが差別をしないよう人権意識を高める努力をする」が 31.6%となっている。
- 前回調査と比較すると、「部落差別(同和問題)について、市民の理解と認識を深める」が 11.0 ポイント、「その他」が 8.9 ポイント、「市民自らが差別をしないよう人権意識を高める努力をする」が 3.3 ポイント少なく、「インターネット上での同和問題に関する差別的な書き込みの監視を強化する」が 6.6 ポイント、「学校教育の中で同和問題に関する正しい知識を教える」が 4.0 ポイント多くなっている。



(※1) 前回調査では、「同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」との回答項目は設定していない。

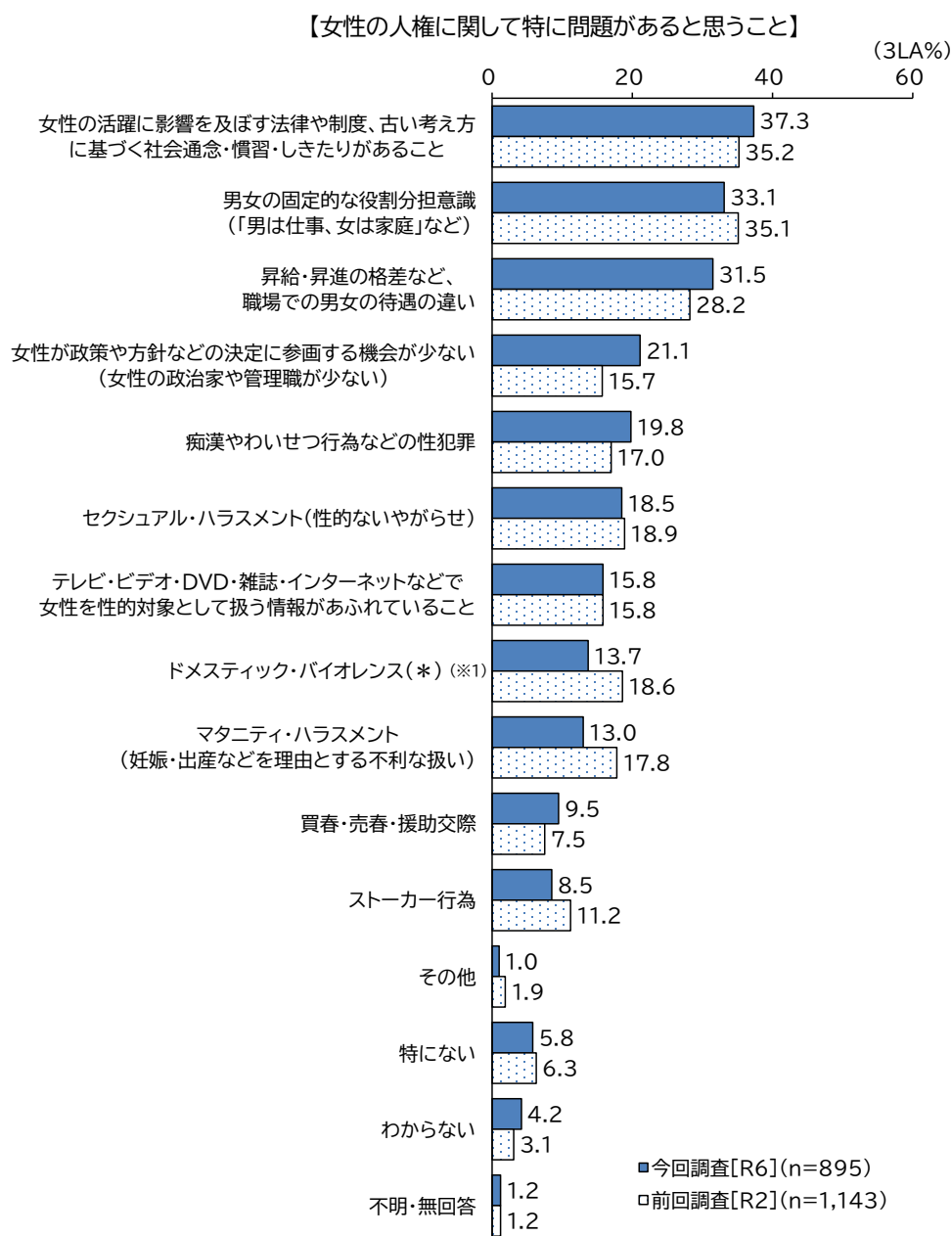
3. 女性

(1)問6 女性の人権に関して特に問題があると思うこと

問6 女性の人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。(○は3つまで)

【全体】

- 女性の人権に関して特に問題があると思うことについて、「女性の活躍に影響を及ぼす法律や制度、古い考え方にに基づく社会通念・慣習・しきたりがあること」が 37.3%で最も多く、次いで「男女の固定的な役割分担意識(『男は仕事、女は家庭』など)」が 33.1%、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」が 31.5%となっている。
- 前回調査と比較すると、「ドメスティック・バイオレンス」が 4.9 ポイント、「マタニティ・ハラスメント(妊娠・出産などを理由とする不利な扱い)」が 4.8 ポイント少なく、「女性が政策や方針などの決定に参画する機会が少ない(女性の政治家や管理職が少ない)」が 5.4 ポイント、「昇給・昇進の格差など、職場での男女の待遇の違い」が 3.3 ポイント多くなっている。



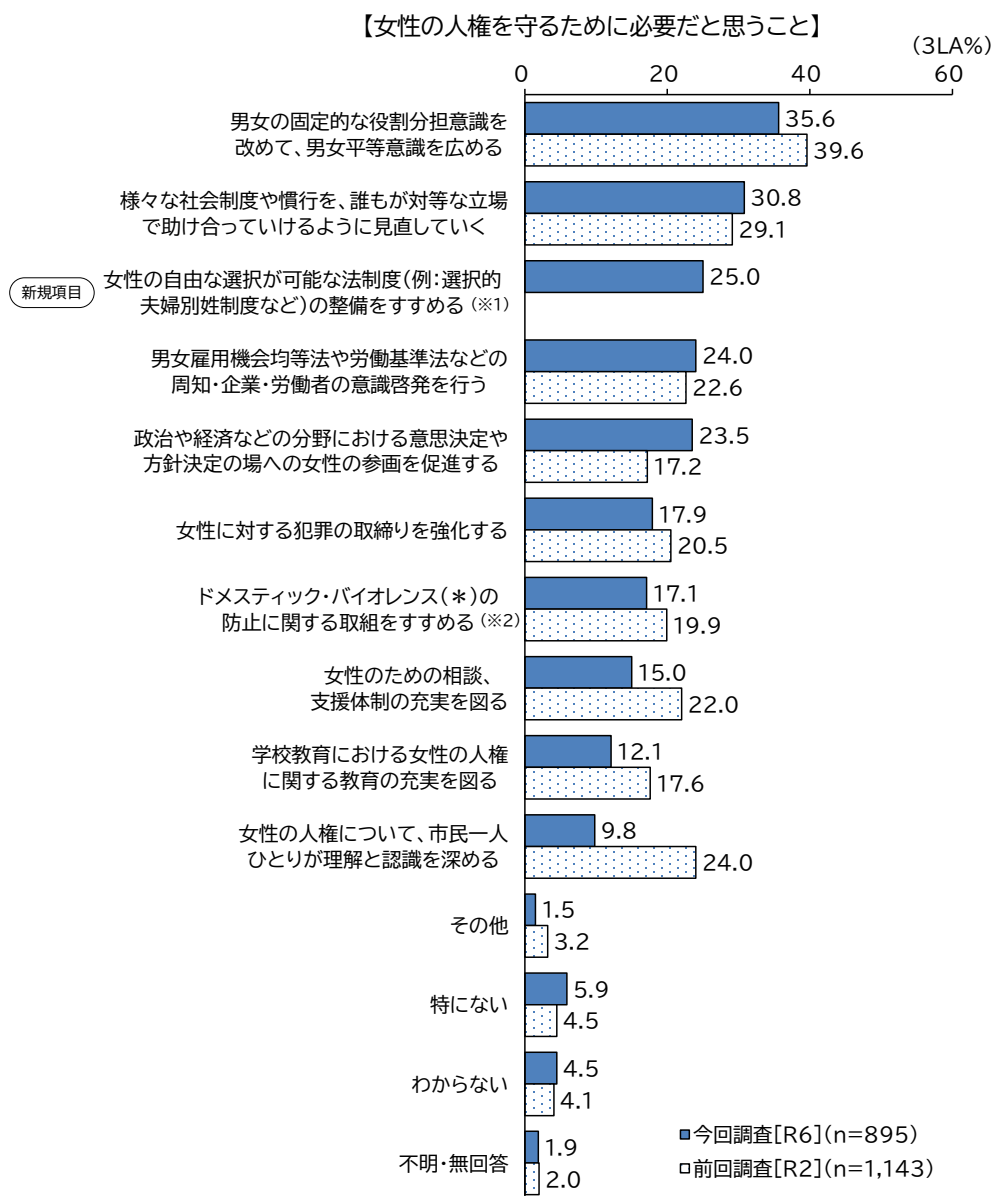
*ドメスティック・バイオレンス：配偶者やパートナーからの身体に対する暴力、またはこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動
(※1) 前回調査では、「ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーによる暴力)」としていた。

(2)問7 女性の人権を守るために必要だと思うこと

問7 女性の人権を守るために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。
(〇は3つまで)

【全体】

- 女性の人権を守るために必要だと思うことについて、「男女の固定的な役割分担意識を改めて、男女平等意識を広める」が35.6%で最も多く、次いで「様々な社会制度や慣行を、誰もが対などな立場で助け合っているように見直していく」が30.8%、「女性の自由な選択が可能な法制度(例:選択的夫婦別姓制度など)の整備をすすめる」が25.0%となっている。
- 前回調査と比較すると、「女性の人権について、市民一人ひとりが理解と認識を深める」が14.2ポイント、「女性のための相談、支援体制の充実を図る」が7.0ポイント、「学校教育における女性の人権に関する教育の充実を図る」が5.5ポイント、「男女の固定的な役割分担意識を改めて、男女平等意識を広める」が4.0ポイント少なく、「政治や経済などの分野における意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する」が6.3ポイント多くなっている。



*ドメスティック・バイオレンス: 配偶者やパートナーからの身体に対する暴力、またはこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動

(※1) 前回調査では、「女性の自由な選択が可能な法制度(例:選択的夫婦別姓制度など)の整備をすすめる」との回答項目は設定してない。

(※2) 前回調査では、「ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーによる暴力)の防止」としていた。

4. 子ども

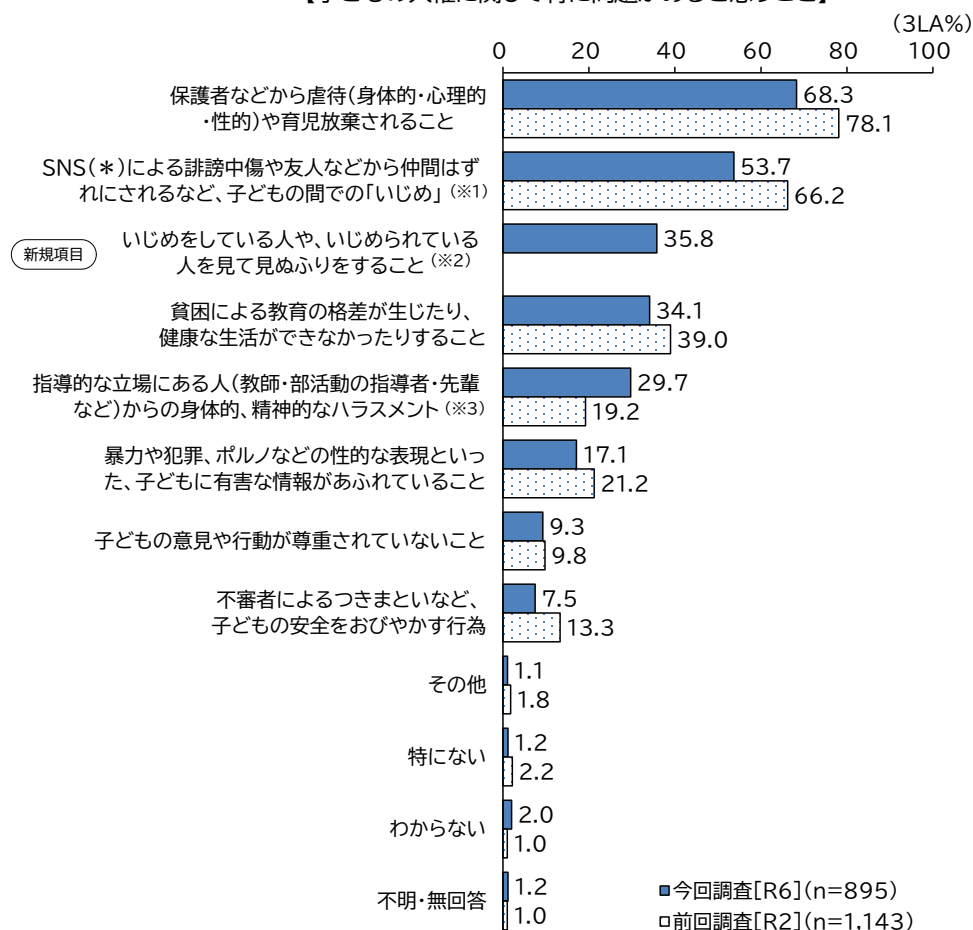
(1)問8 子どもの人権に関して特に問題があると思うこと

問8 子どもの人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。
(〇は3つまで)

【全体】

- 子どもの人権に関して特に問題があると思うことについて、「保護者などから虐待(身体的・心理的・性的)や育児放棄されること」が68.3%で最も多く、次いで「SNSによる誹謗中傷や友人などから仲間はずれにされるなど、子どもの間での『いじめ』」が53.7%、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」が35.8%となっている。
- 前回調査と比較すると、「SNSによる誹謗中傷や友人などから仲間はずれにされるなど、子どもの間での『いじめ』」が12.5ポイント、「保護者などから虐待(身体的・心理的・性的)や育児放棄されること」が9.8ポイント、「不審者によるつきまといなど、子どもの安全をおびやかす行為」が5.8ポイント、「貧困による教育の格差が生じたり、健康な生活ができなかったりすること」が4.9ポイント、「暴力や犯罪、ポルノなどの性的な表現といった、子どもに有害な情報があふれていること」が4.1ポイント少なく、「指導的な立場にある人(教師・部活動の指導者・先輩など)からの身体的、精神的なハラスメント」が10.5ポイント多くなっている。

【子どもの人権に関して特に問題があると思うこと】



*SNS: YouTube・LINE・Instagram などインターネット上で他者と繋がることのできるサービス

(※1) 前回調査では、「子どもの間での『いじめ』」としていた。

(※2) 前回調査では、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」との回答項目は設定してない。

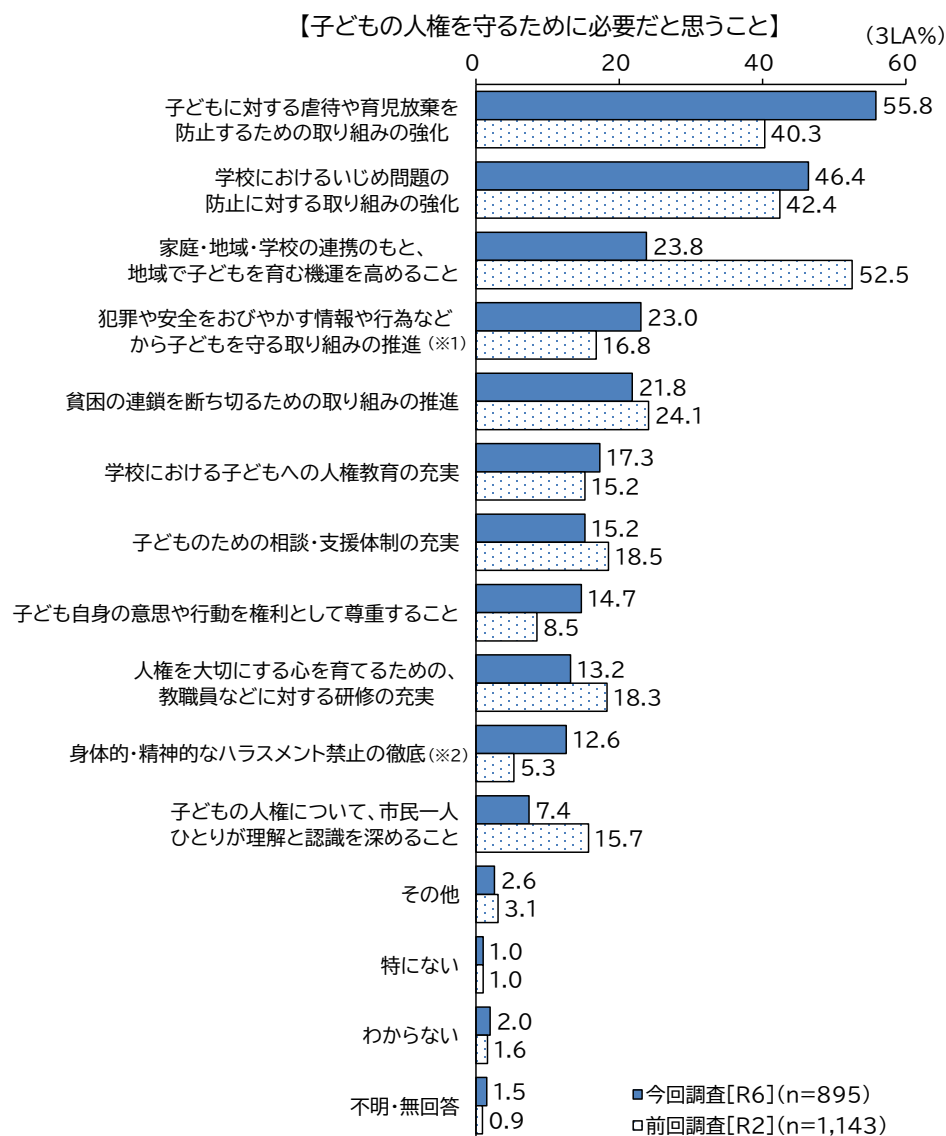
(※3) 前回調査では、「指導的な立場にある人からの体罰」としていた。

(2)問9 子どもの人権を守るために必要だと思うこと

問9 子どもの人権を守るために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。
(〇は3つまで)

【全体】

- 子どもの人権を守るために必要だと思うことについて、「子どもに対する虐待や育児放棄を防止するための取り組みの強化」が 55.8%で最も多く、次いで「学校におけるいじめ問題の防止に対する取り組みの強化」が 46.4%、「家庭・地域・学校の連携のもと、地域で子どもを育む機運を高めること」が 23.8%となっている。
- 前回調査と比較すると、「家庭・地域・学校の連携のもと、地域で子どもを育む機運を高めること」が 28.7 ポイント、「子どもの人権について、市民一人ひとりが理解と認識を深めること」が 8.3 ポイント、「人権を大切にする心を育てるための、教職員などに対する研修の充実」が 5.1 ポイント、「子どものための相談・支援体制の充実」が 3.3 ポイント少なく、「子どもに対する虐待や育児放棄を防止するための取り組みの強化」が 15.5 ポイント、「身体的・精神的なハラスメント禁止の徹底」が 7.3 ポイント、「犯罪や安全をおびやかす情報や行為などから子どもを守る取り組みの推進」が 6.2 ポイント、「子ども自身の意思や行動を権利として尊重すること」が 6.2 ポイント、「学校におけるいじめ問題の防止に対する取り組みの強化」が 4.0 ポイント多くなっている。



(※1) 前回調査では、「犯罪や安全をおびやかす行為などから子どもを守る取り組みの推進」としていた。

(※2) 前回調査では、「体罰禁止の徹底」としていた。

5. 高齢者

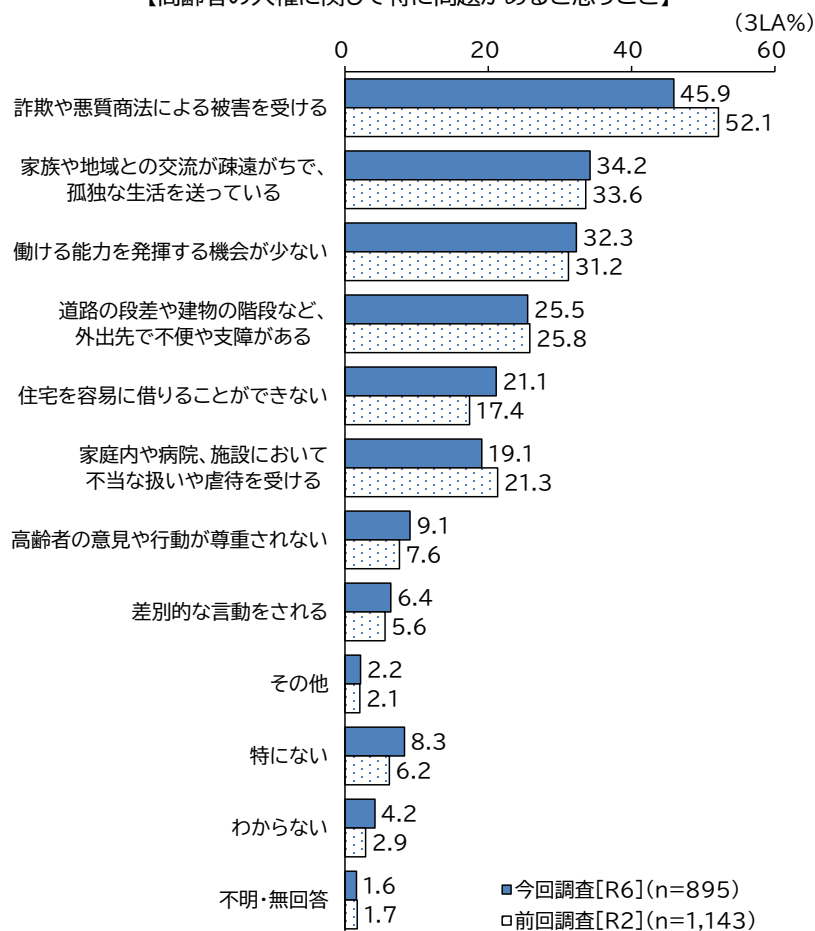
(1)問 10 高齢者の人権に関して特に問題があると思うこと

問 10 高齢者の人権に関する事で、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。
(○は3つまで)

【全体】

- 高齢者の人権に関して特に問題があると思うことについて、「詐欺や悪質商法による被害を受ける」が45.9%で最も多く、次いで「家族や地域との交流が疎遠がちで、孤独な生活を送っている」が34.2%、「働ける能力を発揮する機会が少ない」が32.3%となっている。
- 前回調査と比較すると、「詐欺や悪質商法による被害を受ける」が6.2ポイント少なく、「住宅を容易に借りることができない」が3.7ポイント多くなっている。

【高齢者の人権に関して特に問題があると思うこと】

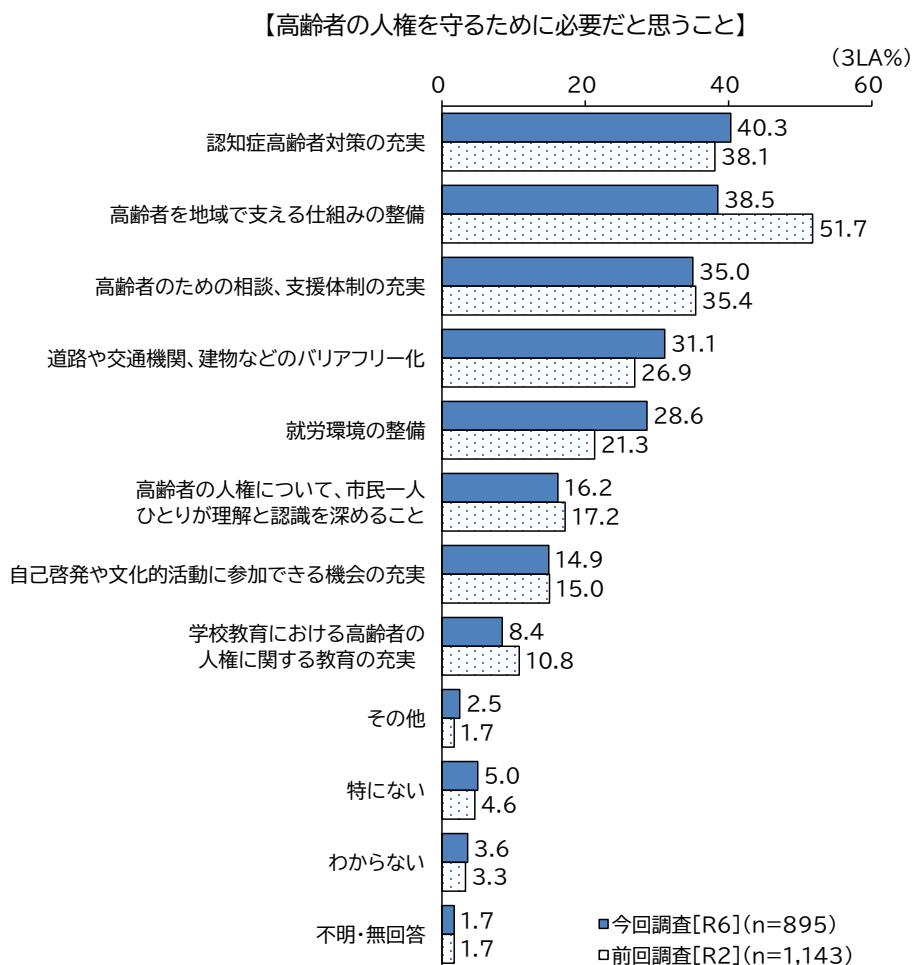


(2)問 11 高齢者の人権を守るために必要だと思うこと

問 11 高齢者の人権を守るために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。
(○は3つまで)

【全体】

- 高齢者の人権を守るために必要だと思うことについて、「認知症高齢者対策の充実」が 40.3%で最も多く、次いで「高齢者を地域で支える仕組みの整備」が 38.5%、「高齢者のための相談、支援体制の充実」が 35.0%となっている。
- 前回調査と比較すると、「高齢者を地域で支える仕組みの整備」が 13.2 ポイント少なく、「就労環境の整備」が 7.3 ポイント、「道路や交通機関、建物などのバリアフリー化」が 4.2 ポイント多くなっている。



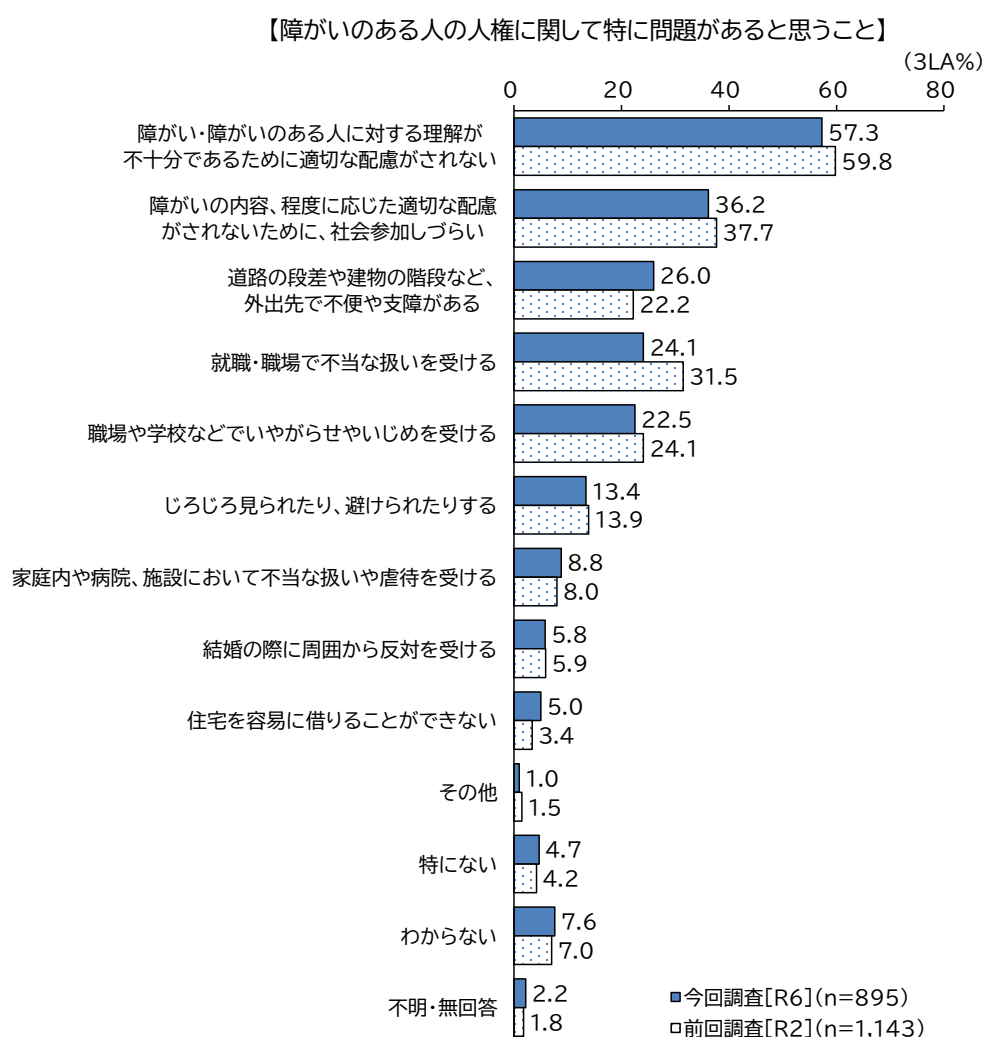
6. 障がいのある人

(1) 問 12 障がいのある人の人権に関して特に問題があると思うこと

問 12 障がいのある人の人権に関する事で、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。
(○は3つまで)

【全体】

- 障がいのある人の人権に関して特に問題があると思うことについて、「障がい・障がいのある人に対する理解が不十分であるために適切な配慮がされない」が 57.3%で最も多く、次いで「障がいの内容、程度に応じた適切な配慮がされないために、社会参加しづらい」が 36.2%、「道路の段差や建物の階段など、外出先で不便や支障がある」が 26.0%となっている。
- 前回調査と比較すると、「就職・職場で不当な扱いを受ける」が 7.4 ポイント少なく、「道路の段差や建物の階段など、外出先で不便や支障がある」が 3.8 ポイント多くなっている。



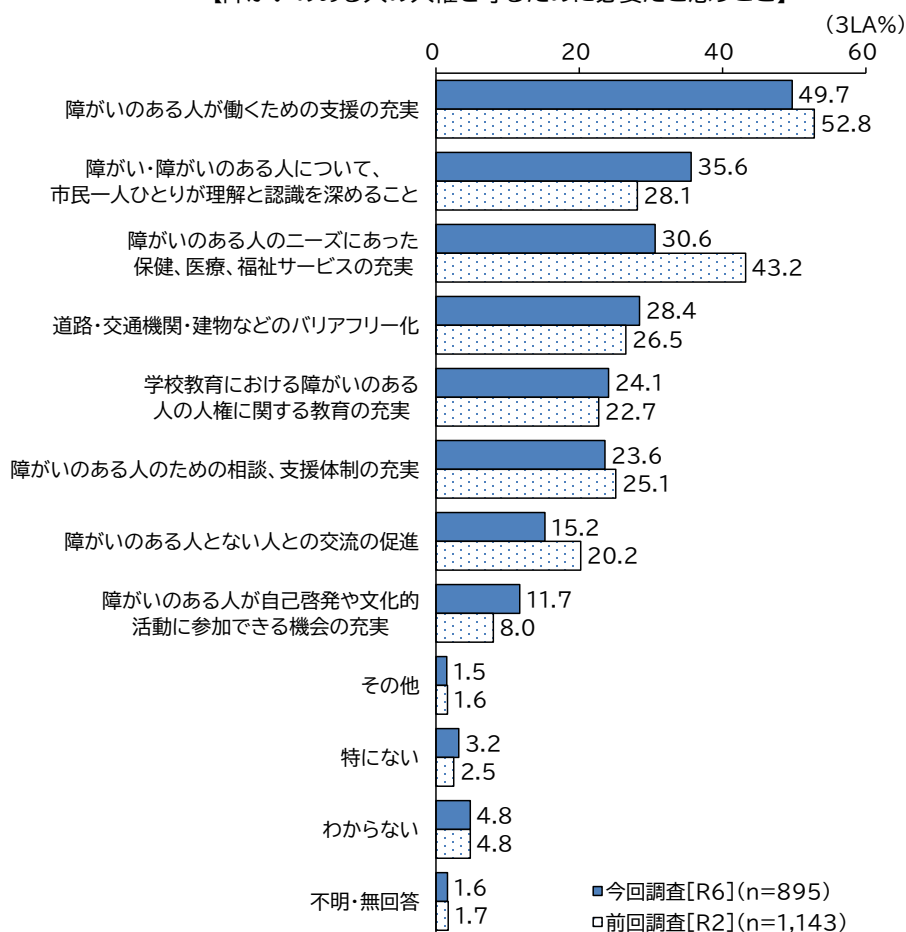
(2)問 13 障がいのある人の人権を守るために必要だと思うこと

問 13 障がいのある人の人権を守るために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 障がいのある人の人権を守るために必要だと思うことについて、「障がいのある人が働くための支援の充実」が 49.7%で最も多く、次いで「障がい・障がいのある人について、市民一人ひとりが理解と認識を深めること」が 35.6%、「障がいのある人のニーズにあった保健、医療、福祉サービスの充実」が 30.6%となっている。
- 前回調査と比較すると、「障がいのある人のニーズにあった保健、医療、福祉サービスの充実」が 12.6 ポイント、「障がいのある人となない人との交流の促進」が 5.0 ポイント、「障がいのある人が働くための支援の充実」が 3.1 ポイント少なく、「障がい・障がいのある人について、市民一人ひとりが理解と認識を深めること」が 7.5 ポイント、「障がいのある人が自己啓発や文化的活動に参加できる機会の充実」が 3.7 ポイント多くなっている。

【障がいのある人の人権を守るために必要だと思うこと】



7. 外国人

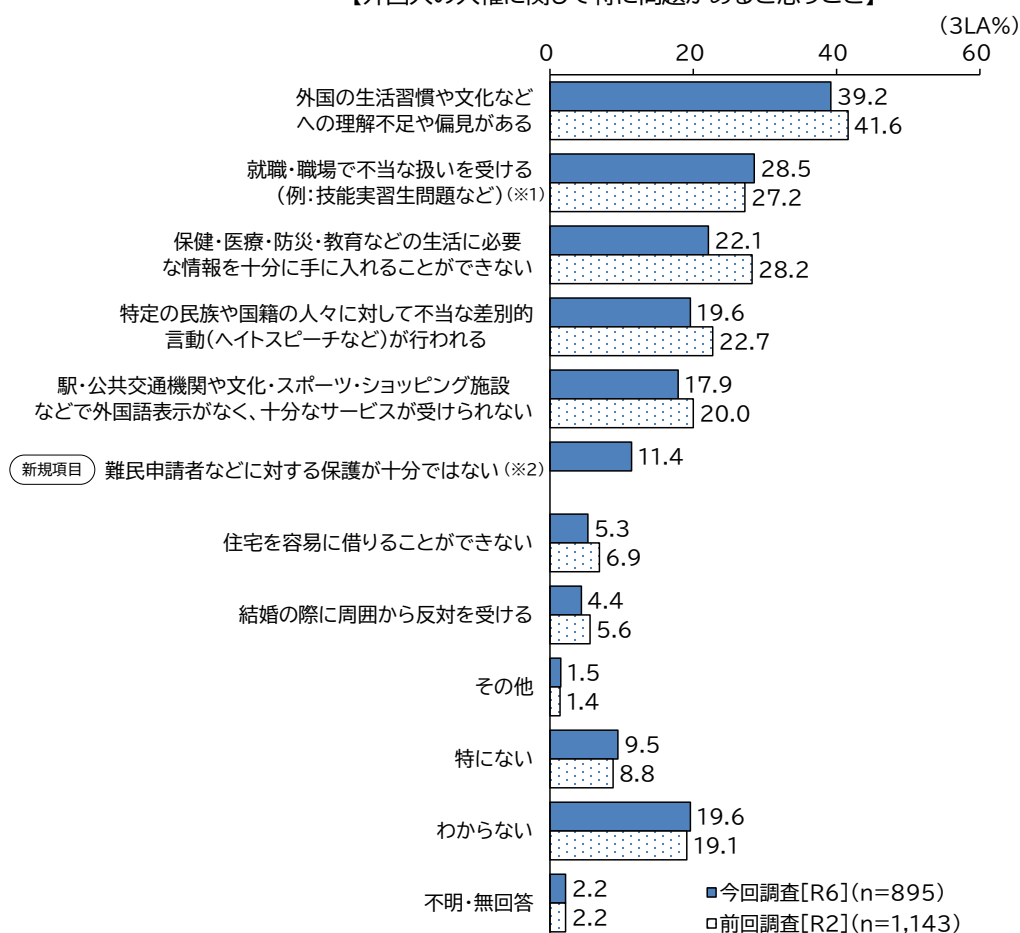
(1) 問 14 外国人の人権に関して特に問題があると思うこと

問 14 外国人の人権に関する事で、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。
(○は3つまで)

【全体】

- 外国人の人権に関して特に問題があると思うことについて、「外国の生活習慣や文化などへの理解不足や偏見がある」が 39.2%で最も多く、次いで「就職・職場で不当な扱いを受ける(例:技能実習生問題など)」が 28.5%、「保健・医療・防災・教育などの生活に必要な情報を十分に手に入れることができない」が 22.1%となっている。
- 前回調査と比較すると、「保健・医療・防災・教育などの生活に必要な情報を十分に手に入れることができない」が 6.1 ポイント、「特定の民族や国籍の人々に対して不当な差別的言動(ヘイトスピーチなど)が行われる」が 3.1 ポイント少なくなっている。

【外国人の人権に関して特に問題があると思うこと】



(※1) 前回調査では、「就職・職場で不利な扱いを受けたり、搾取される」としていた。

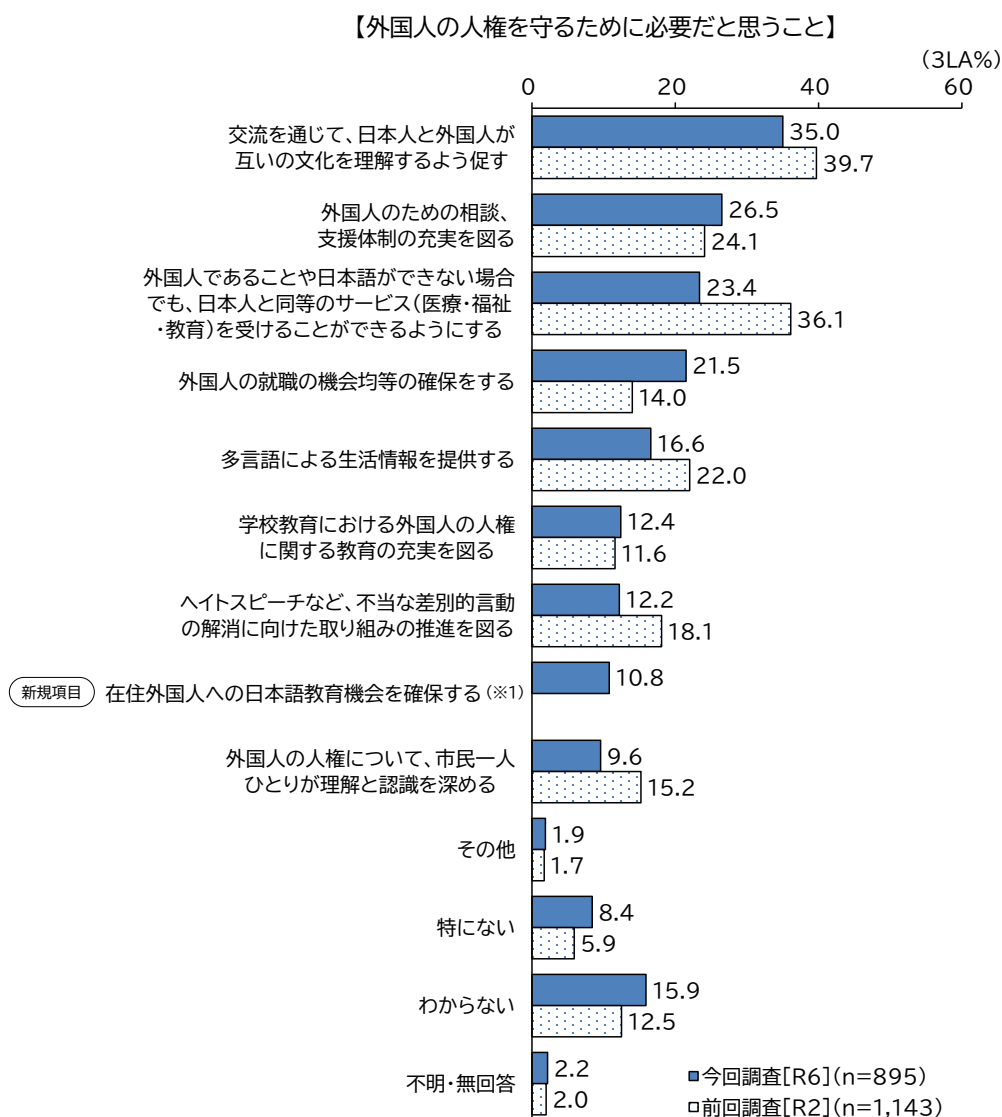
(※2) 前回調査では、「難民申請者などに対する保護が十分ではない」との回答項目は設定していない。

(2)問 15 外国人の人権を守るために必要だと思うこと

問 15 外国人の人権を守るために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。
(〇は3つまで)

【全体】

- 外国人の人権を守るために必要だと思うことについて、「交流を通じて、日本人と外国人が互いの文化を理解するよう促す」が35.0%で最も多く、次いで「外国人のための相談、支援体制の充実を図る」が26.5%、「外国人であることや日本語ができない場合でも、日本人と同等のサービス(医療・福祉・教育)を受けることができるようにする」が23.4%となっている。
- 前回調査と比較すると、「外国人であることや日本語ができない場合でも、日本人と同等のサービス(医療・福祉・教育)を受けることができるようにする」が12.7ポイント、「ヘイトスピーチなど、不当な差別的言動の解消に向けた取り組みの推進を図る」が5.9ポイント、「外国人の人権について、市民一人ひとりが理解と認識を深める」が5.6ポイント、「多言語による生活情報を提供する」が5.4ポイント、「交流を通じて、日本人と外国人が互いの文化を理解するよう促す」が4.7ポイント少なく、「外国人の就職の機会均等の確保をする」が7.5ポイント、「わからない」が3.4ポイント多くなっている。



(※1) 前回調査では、「在住外国人への日本語教育機会を確保する」との回答項目は設定していない。

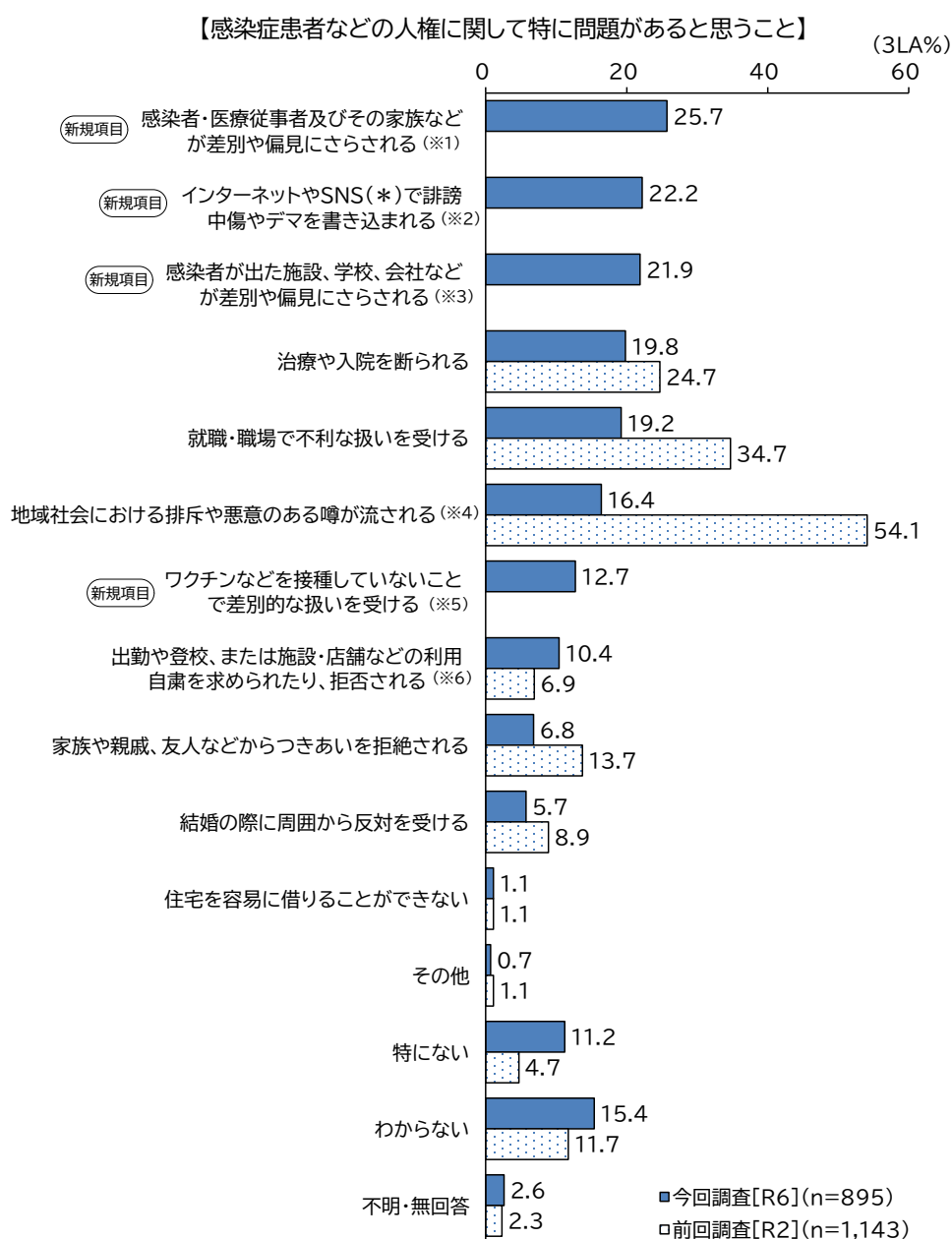
8. 感染症患者など

(1) 問 16 感染症患者などの人権に関して特に問題があると思うこと

問 16 感染症患者などの人権に関する事で、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。
(○は3つまで)

【全体】

- 感染症患者などの人権に関して特に問題があると思うことについて、「感染者・医療従事者及びその家族などが差別や偏見にさらされる」が 25.7%で最も多く、次いで「インターネットやSNSで誹謗中傷やデマを書き込まれる」が 22.2%、「感染者が出た施設、学校、会社などが差別や偏見にさらされる」が 21.9%となっている。
- 前回調査と比較すると、上位 3 項目はいずれも新規項目となっている。



*SNS: YouTube・LINE・Instagram などインターネット上で他者と繋がることができるサービス

(※1) 前回調査では、「感染者・医療従事者及びその家族などが差別や偏見にさらされる」との回答項目は設定していない。

(※2) 前回調査では、「インターネットやSNSで誹謗中傷やデマを書き込まれる」との回答項目は設定していない。

(※3) 前回調査では、「感染者が出た施設、学校、会社などが差別や偏見にさらされる」との回答項目は設定していない。

(※4) 前回調査では、「悪意のある噂を流されたり差別的な言動をされる」としていた。

(※5) 前回調査では、「ワクチンなどを接種していないことで差別的な扱いを受ける」との回答項目は設定していない。

(※6) 前回調査では、「宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否される」としていた。

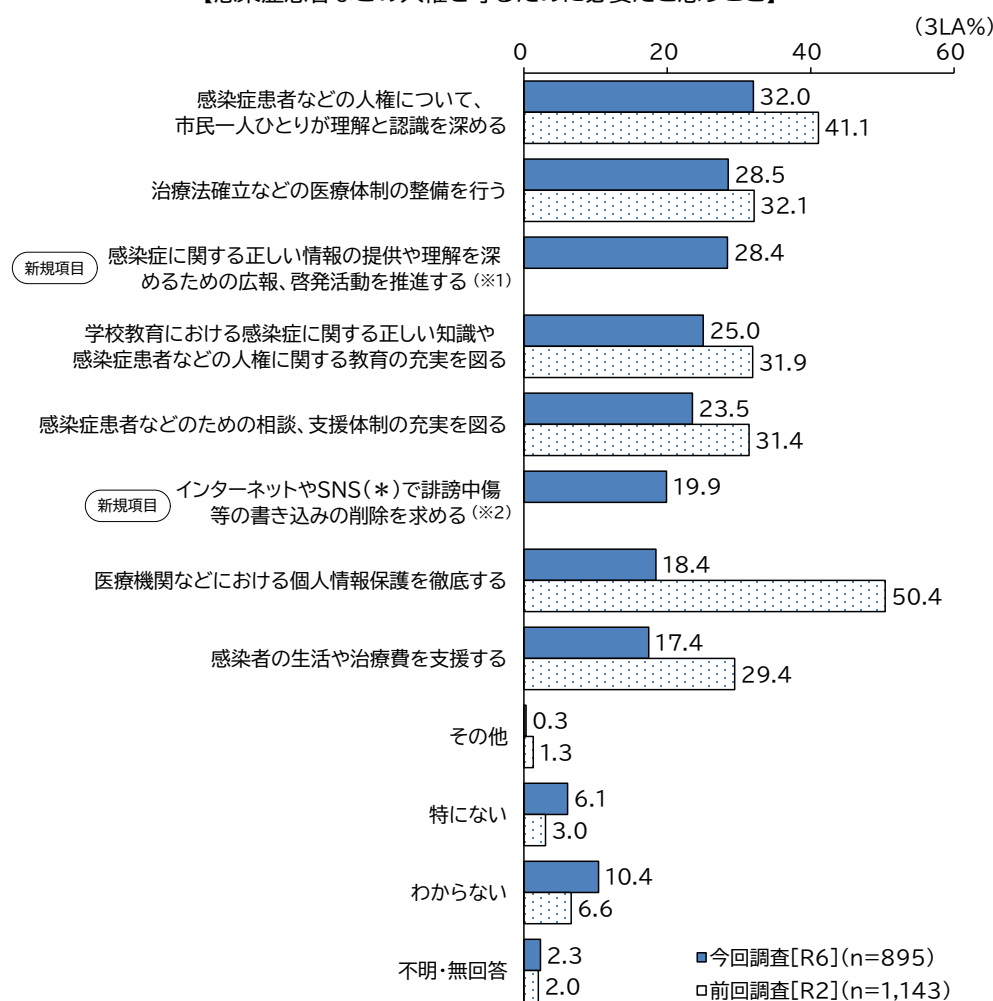
(2)問 17 感染症患者などの人権を守るために必要だと思うこと

問 17 感染症患者などの人権を守るために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。(○は3つまで)

【全体】

- 感染症患者などの人権を守るために必要だと思うことについて、「感染症患者などの人権について、市民一人ひとりが理解と認識を深める」が 32.0%で最も多く、次いで「治療法確立などの医療体制の整備を行う」が 28.5%、「感染症に関する正しい情報の提供や理解を深めるための広報、啓発活動を推進する」が 28.4%となっている。
- 前回調査と比較すると、比較可能な項目はいずれも割合が少なくなっている。

【感染症患者などの人権を守るために必要だと思うこと】



*SNS: YouTube・LINE・Instagram などインターネット上で他者と繋がることができるサービス

(※1) 前回調査では、「感染症に関する正しい情報の提供や理解を深めるための広報、啓発活動を推進する」との回答項目は設定していない。

(※2) 前回調査では、「インターネットやSNSで誹謗中傷などの書き込みの削除を求める」との回答項目は設定していない。

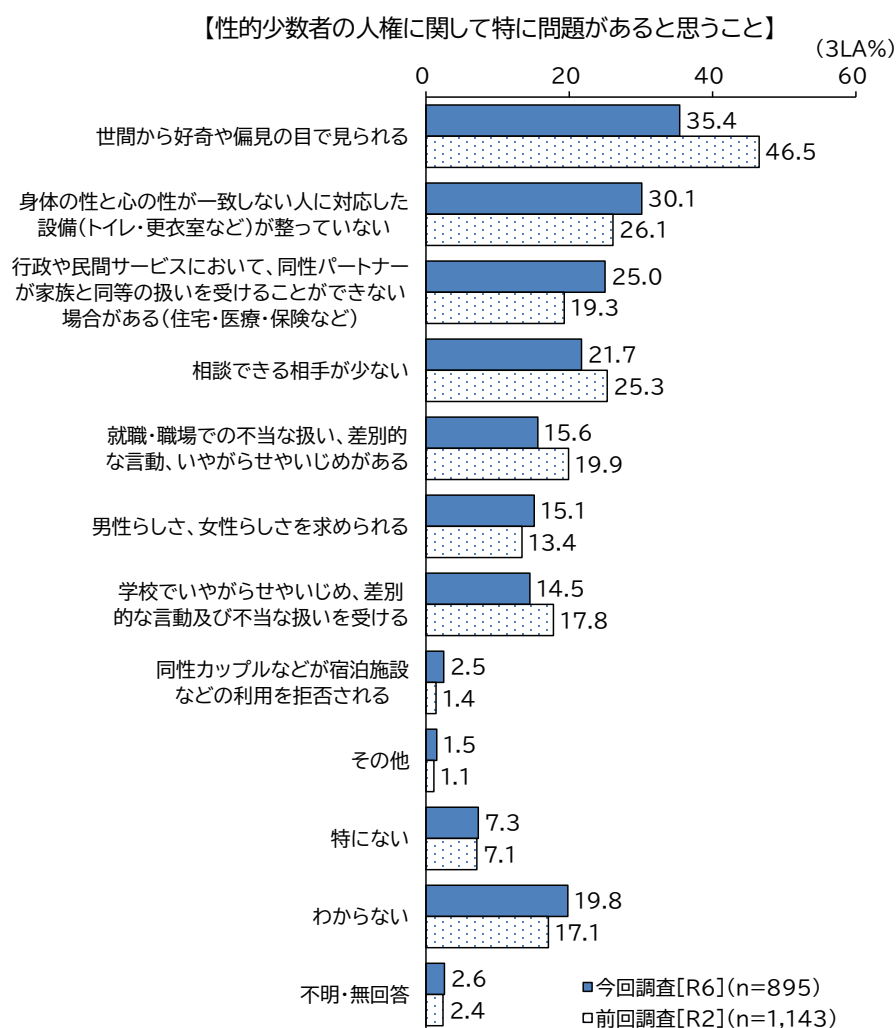
9. 性的指向・性自認

(1) 問 18 性的少数者の人権に関して特に問題があると思うこと

問 18 LGBTQ+などの性的少数者の人権に関する事で、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 性的少数者の人権に関して特に問題があると思うことについて、「世間から好奇や偏見の目で見られる」が 35.4%で最も多く、次いで「身体の性と心の性が一致しない人に対応した設備(トイレ・更衣室など)が整っていない」が 30.1%、「行政や民間サービスにおいて、同性パートナーが家族と同等の扱いを受けることができない場合がある(住宅・医療・保険など)」が 25.0%となっている。
- 前回調査と比較すると、「世間から好奇や偏見の目で見られる」が 11.1 ポイント、「就職・職場での不当な扱い、差別的な言動、いやがらせやいじめがある」が 4.3 ポイント、「相談できる相手が少ない」が 3.6 ポイント、「学校でいやがらせやいじめ、差別的な言動及び不当な扱いを受ける」が 3.3 ポイント少なく、「行政や民間サービスにおいて、同性パートナーが家族と同等の扱いを受けることができない場合がある(住宅・医療・保険など)」が 5.7 ポイント、「身体の性と心の性が一致しない人に対応した設備(トイレ・更衣室など)が整っていない」が 4.0 ポイント多くなっている。



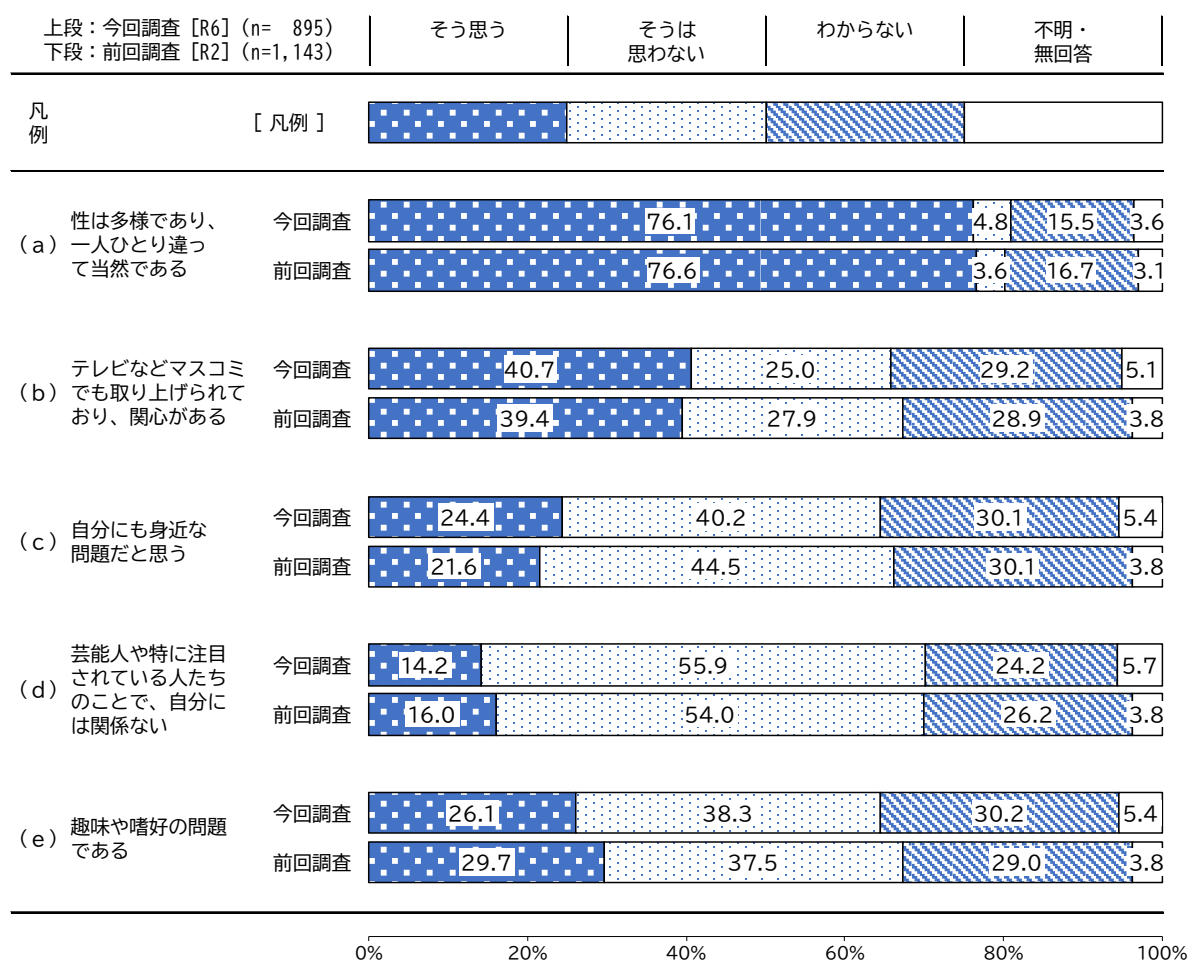
(2)問 19 性的少数者についての考え

問 19 あなたは、LGBTQ+などの性的少数者について、どのような考えをお持ちですか。
(それぞれに○を1つ)

【全体】

- 性的少数者についての考えについて、「そう思う」の割合が最も多いものは「(a)性は多様であり、一人ひとり違って当然である」(76.1%)、割合が最も少ないものは「(d)芸能人や特に注目されている人たちのことで、自分には関係ない」(14.2%)となっている。
- 前回調査と比較すると、「(c)自分にも身近な問題だと思う」は、「そうは思わない」が 4.3 ポイント少なく、「そう思う」がやや多くなっている。「(e)趣味や嗜好の問題である」は、「そう思う」が 3.6 ポイント少なくなっている。

【性的少数者についての考え(経年比較)】



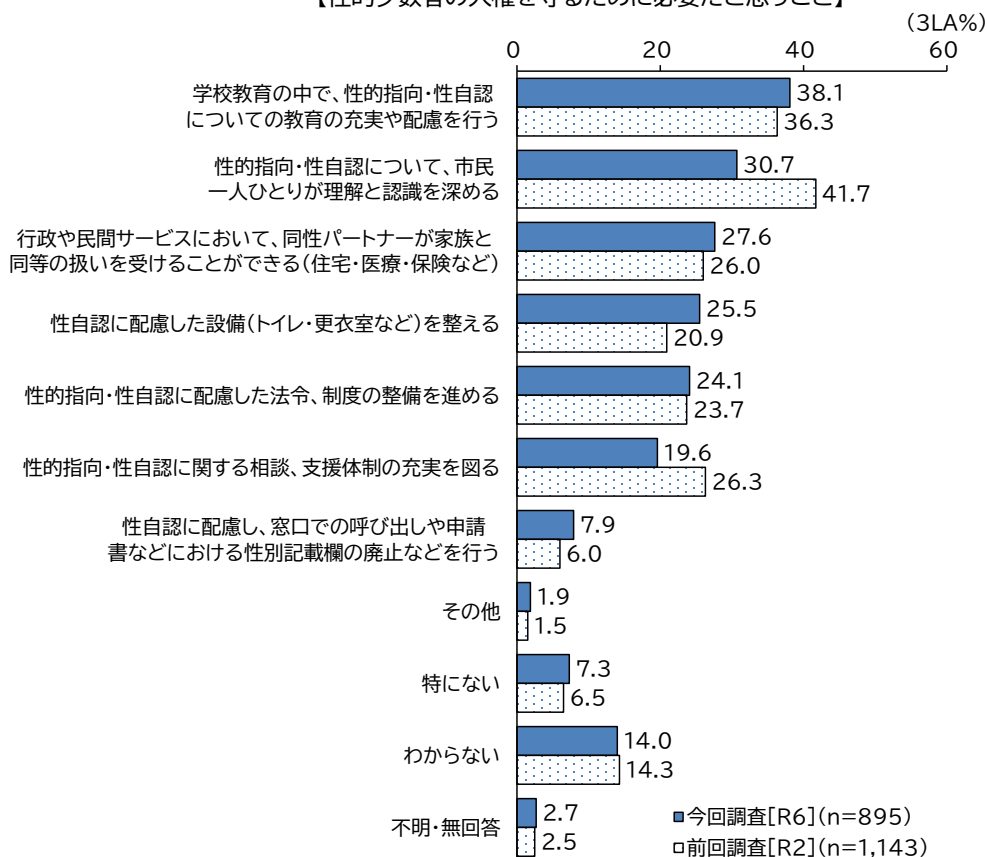
(3)問 20 性的少数者の人権を守るために必要だと思うこと

問 20 LGBTQ+などの性的少数者の人権を守るために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 性的少数者の人権を守るために必要だと思うことについて、「学校教育の中で、性的指向・性自認についての教育の充実や配慮を行う」が 38.1%で最も多く、次いで「性的指向・性自認について、市民一人ひとりが理解と認識を深める」が 30.7%、「行政や民間サービスにおいて、同性パートナーが家族と同等の扱いを受けることができる(住宅・医療・保険など)」が 27.6%となっている。
- 前回調査と比較すると、「性的指向・性自認について、市民一人ひとりが理解と認識を深める」が 11.0 ポイント、「性的指向・性自認に関する相談、支援体制の充実を図る」が 6.7 ポイント少なく、「性自認に配慮した設備(トイレ・更衣室など)を整える」が 4.6 ポイント多くなっている。

【性的少数者の人権を守るために必要だと思うこと】



(4)問 21 「高知市パートナーシップ登録制度」の認知度

新規設問

問 21 あなたは、「高知市パートナーシップ登録制度」を知っていますか。(○は1つ)

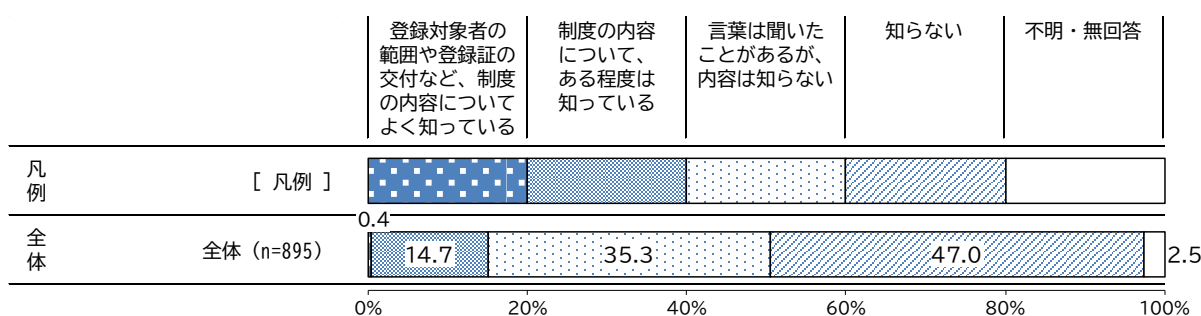
【全体】

- 「高知市パートナーシップ登録制度」の認知度について、「登録対象者の範囲や登録証の交付など、制度の内容についてよく知っている」、「制度の内容について、ある程度は知っている」を合わせた“知っている”は15.1%、「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」も合わせると 50.4%が“言葉は聞いたことがある”となっている。

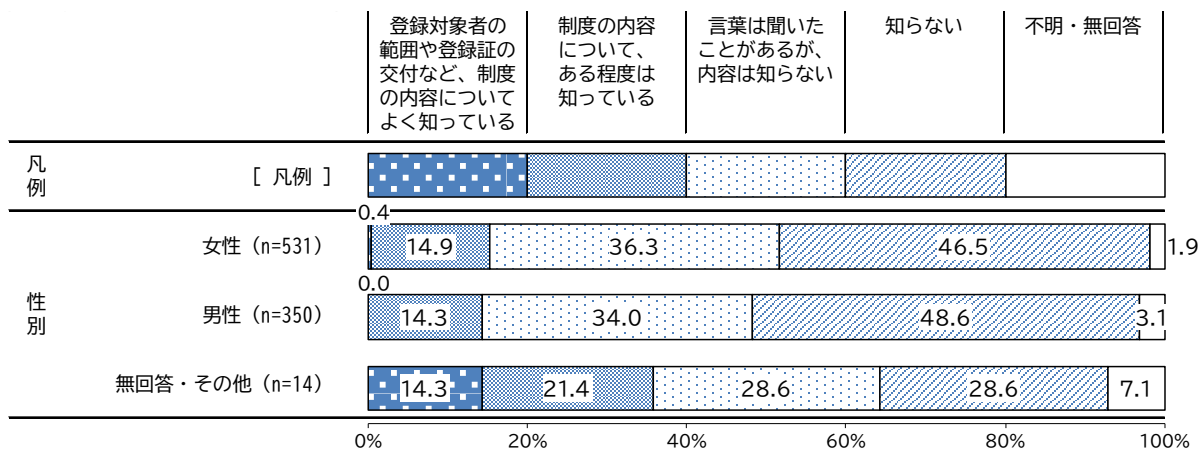
【性別】

- 性別でみると、女性は男性よりも“知っている”が 1 ポイント多くなっている。無回答・その他は“知っている”が35.7%となっている。

【「高知市パートナーシップ登録制度」の認知度】



【性別「高知市パートナーシップ登録制度」の認知度】



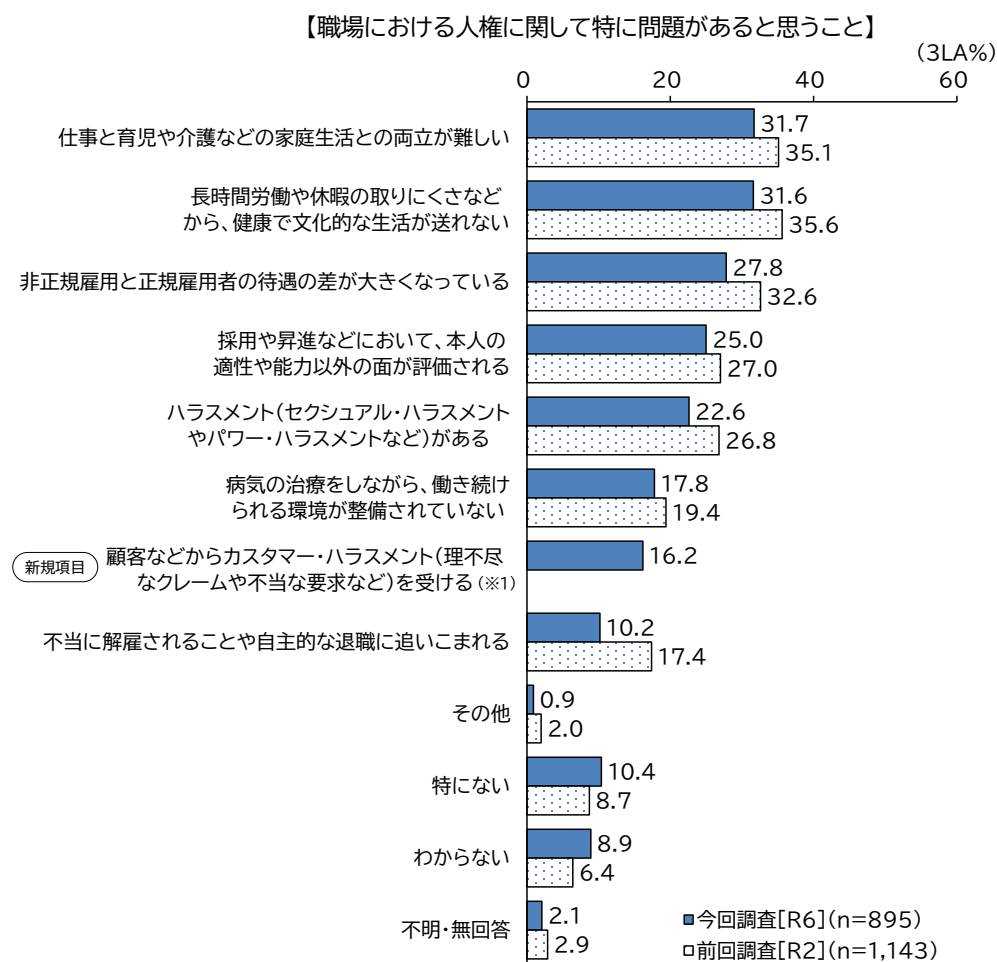
10. 働く人々の人権

(1) 問 22 職場における人権に関して特に問題があると思うこと

問 22 職場における人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。
(○は3つまで)

【全体】

- 職場における人権に関して特に問題があると思うことについて、「仕事と育児や介護などの家庭生活との両立が難しい」が 31.7%で最も多く、次いで「長時間労働や休暇の取りにくさなどから、健康で文化的な生活が送れない」が 31.6%、「非正規雇用と正規雇用者の待遇の差が大きくなっている」が 27.8%となっている。
- 前回調査と比較すると、「不当に解雇されることや自主的な退職に追いこまれる」が 7.2 ポイント、「非正規雇用と正規雇用者の待遇の差が大きくなっている」が 4.8 ポイント、「ハラスメント(セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントなど)がある」が 4.2 ポイント、「長時間労働や休暇の取りにくさなどから、健康で文化的な生活が送れない」が 4.0 ポイント、「仕事と育児や介護などの家庭生活との両立が難しい」が 3.4 ポイント少なくなっている。



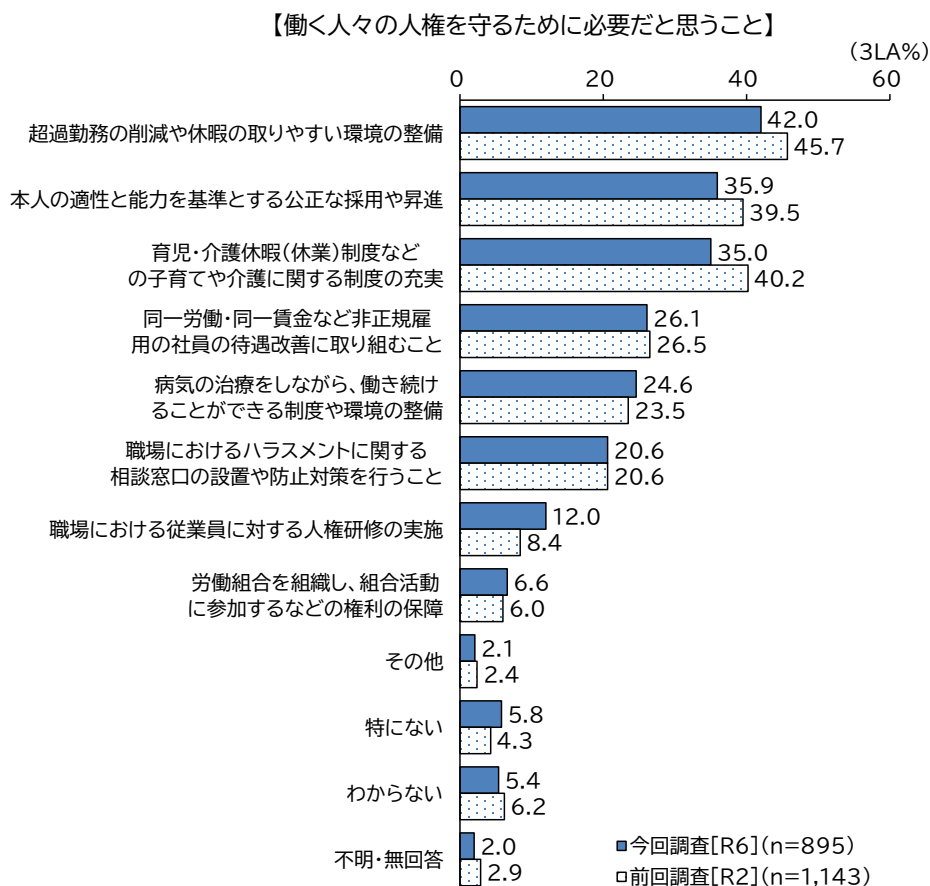
(※1) 前回調査では、「顧客などからカスタマー・ハラスメント(理不尽なクレームや不当な要求など)を受ける」との回答項目は設定していない。

(2)問 23 働く人々の人権を守るために必要だと思うこと

問 23 働く人々の人権を守るために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。
(○は3つまで)

【全体】

- 働く人々の人権を守るために必要だと思うことについて、「超過勤務の削減や休暇の取りやすい環境の整備」が 42.0%で最も多く、次いで「本人の適性と能力を基準とする公正な採用や昇進」が 35.9%、「育児・介護休暇(休業)制度などの子育てや介護に関する制度の充実」が 35.0%となっている。
- 前回調査と比較すると、「育児・介護休暇(休業)制度などの子育てや介護に関する制度の充実」が 5.2 ポイント、「超過勤務の削減や休暇の取りやすい環境の整備」が 3.7 ポイント、「本人の適性と能力を基準とする公正な採用や昇進」が 3.6 ポイント少なく、「職場における従業員に対する人権研修の実施」が 3.6 ポイント多くなっている。



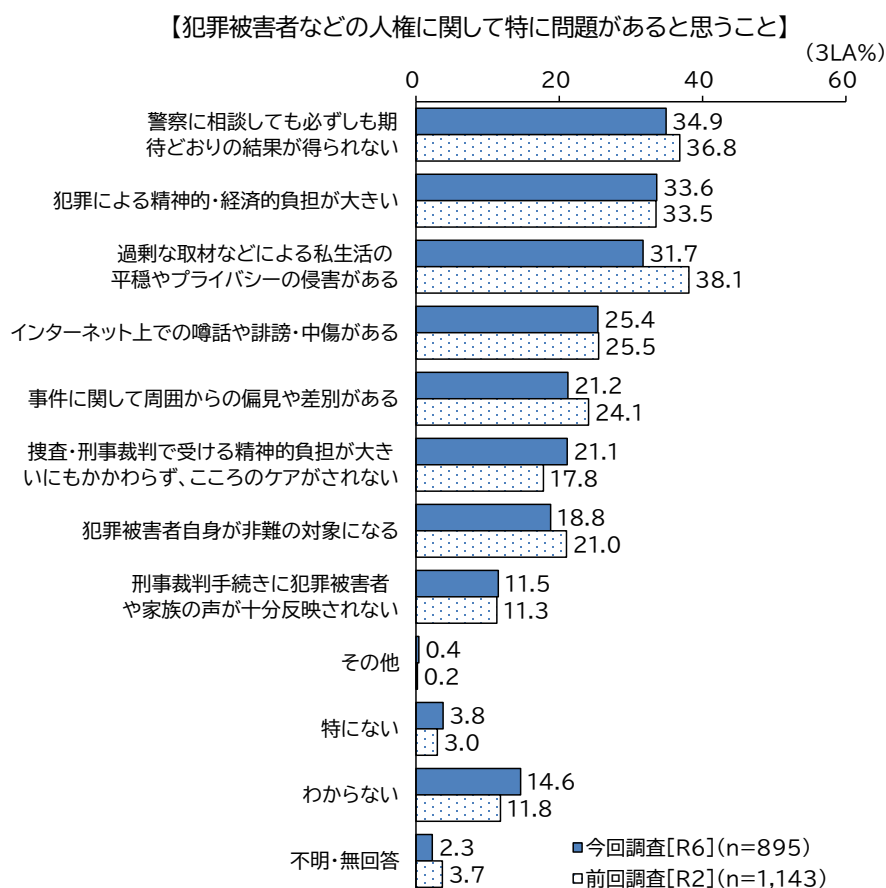
11. 犯罪被害者など

(1) 問 24 犯罪被害者などの人権に関して特に問題があると思うこと

問 24 犯罪被害者などの人権に関する事で、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。
(○は3つまで)

【全体】

- 犯罪被害者などの人権に関して特に問題があると思うことについて、「警察に相談しても必ずしも期待どおりの結果が得られない」が 34.9%で最も多く、次いで「犯罪による精神的・経済的負担が大きい」が 33.6%、「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害がある」が 31.7%となっている。
- 前回調査と比較すると、「過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害がある」が 6.4 ポイント少なく、「捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいにもかかわらず、こころのケアがされない」が 3.3 ポイント多くなっている。



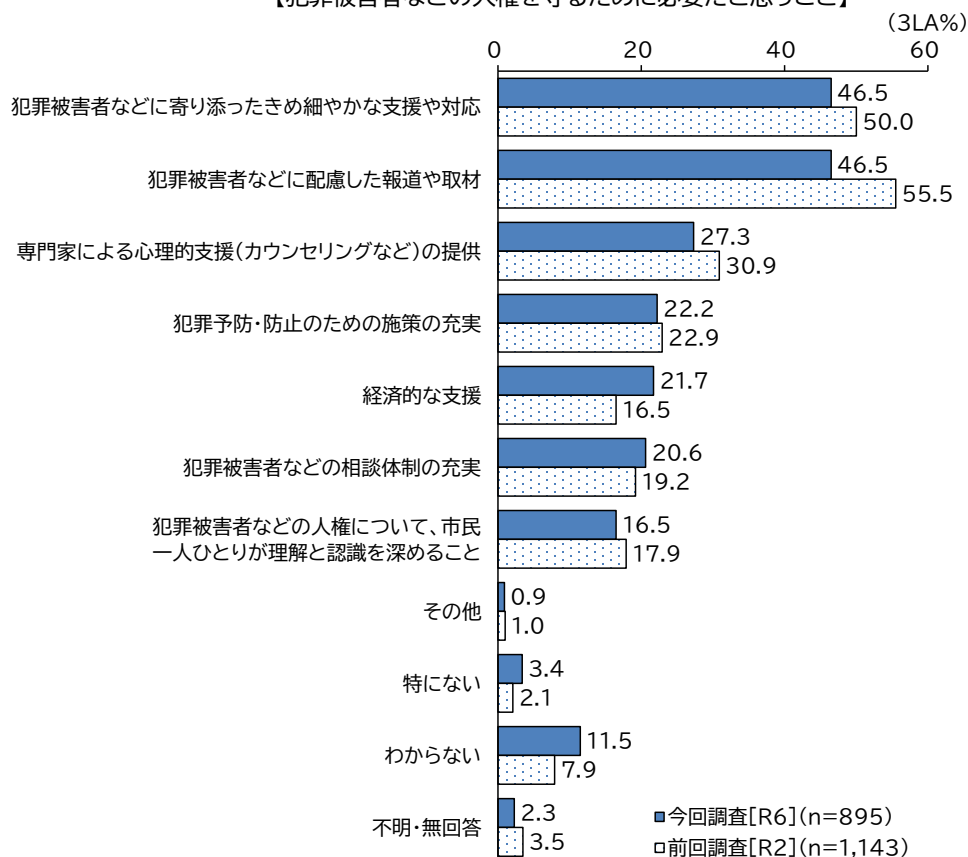
(2)問 25 犯罪被害者などの人権を守るために必要だと思うこと

問 25 犯罪被害者などの人権を守るために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 犯罪被害者などの人権を守るために必要だと思うことについて、「犯罪被害者などに寄り添ったきめ細やかな支援や対応」「犯罪被害者などに配慮した報道や取材」が 46.5%で最も多く、次いで「専門家による心理的支援(カウンセリングなど)の提供」が 27.3%、「犯罪予防・防止のための施策の充実」が 22.2%となっている。
- 前回調査と比較すると、「犯罪被害者などに配慮した報道や取材」が 9.0 ポイント、「専門家による心理的支援(カウンセリングなど)の提供」が3.6 ポイント、「犯罪被害者などに寄り添ったきめ細やかな支援や対応」が 3.5 ポイント少なく、「経済的な支援」が5.2 ポイント、「わからない」が3.6 ポイント多くなっている。

【犯罪被害者などの人権を守るために必要だと思うこと】



12. インターネットによる人権侵害

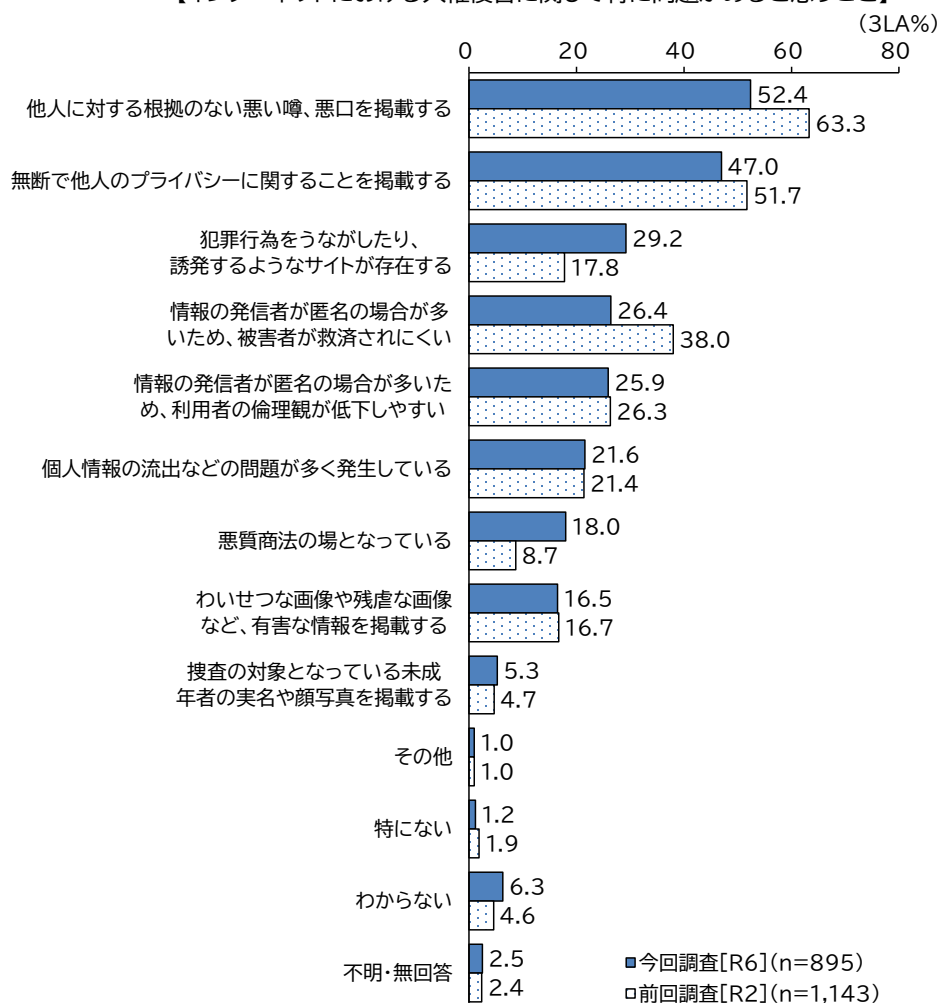
(1)問 26 インターネットにおける人権侵害に関して特に問題があると思うこと

問 26 インターネットによる人権侵害に関する事で、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。(〇は3つまで)

【全体】

- インターネットにおける人権侵害に関して特に問題があると思うことについて、「他人に対する根拠のない悪い噂、悪口を掲載する」が 52.4%で最も多く、次いで「無断で他人のプライバシーに関することを掲載する」が 47.0%、「犯罪行為をうながしたり、誘発するようなサイトが存在する」が 29.2%となっている。
- 前回調査と比較すると、「情報の発信者が匿名の場合が多いため、被害者が救済されにくい」が 11.6 ポイント、「他人に対する根拠のない悪い噂、悪口を掲載する」が 10.9 ポイント、「無断で他人のプライバシーに関することを掲載する」が 4.7 ポイント少なく、「犯罪行為をうながしたり、誘発するようなサイトが存在する」が 11.4 ポイント、「悪質商法の場合となっている」が 9.3 ポイント多くなっている。

【インターネットにおける人権侵害に関して特に問題があると思うこと】



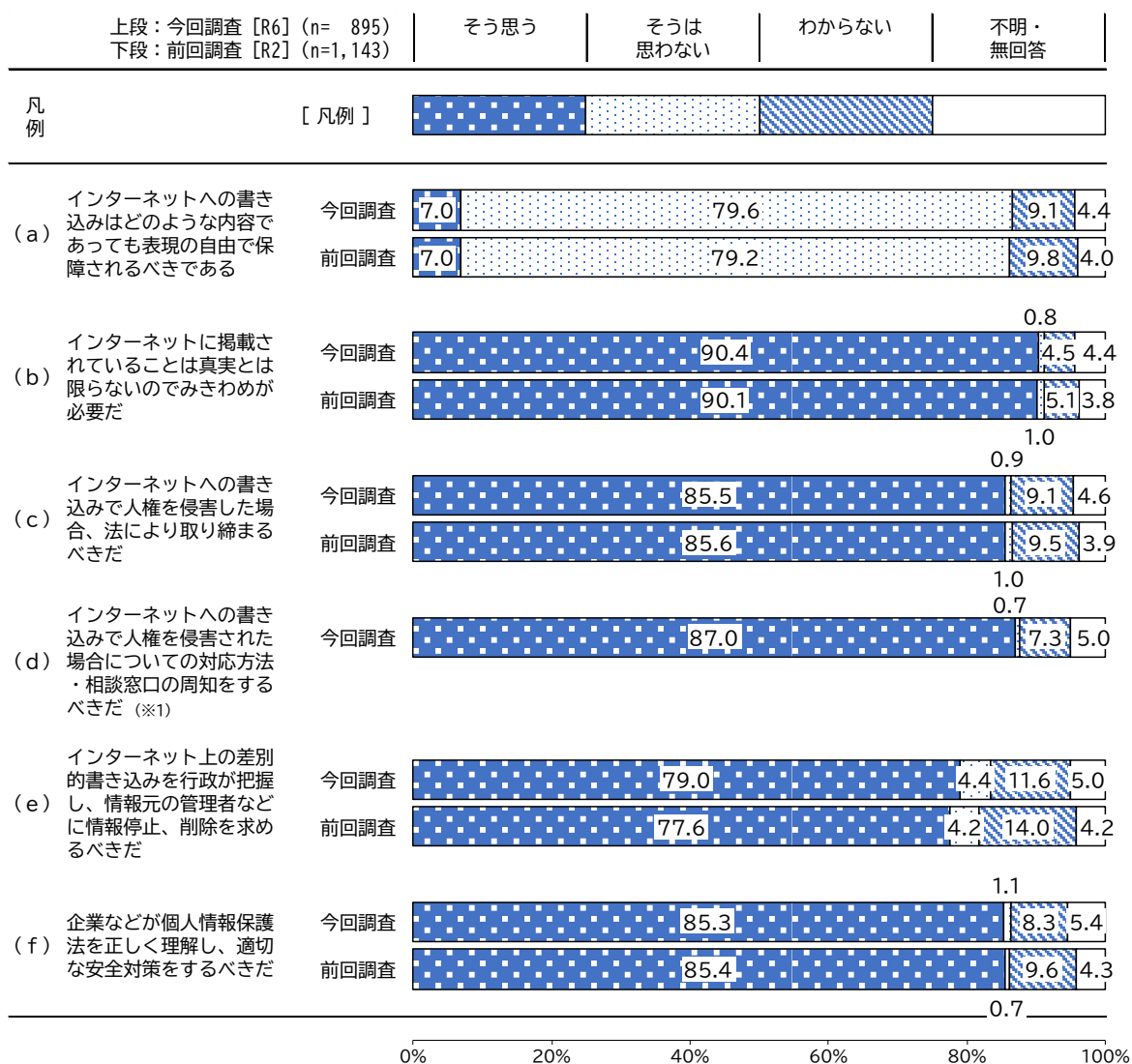
(2)問 27 インターネットにおける人権侵害についての考え

問 27 あなたは、インターネットによる人権侵害について、どのような考えをお持ちですか。
(それぞれに○を1つ)

【全体】

- インターネットにおける人権侵害についての考えについて、「(a)インターネットへの書き込みはどのような内容であっても表現の自由で保障されるべきである」では「そうは思わない」、そのほかの項目は「そう思う」が約 80～90%を占めている。
- 前回調査と比較すると、いずれの項目も大きな違いはみられない。

【インターネットにおける人権侵害についての考え(経年比較)】



(※1) 前回調査では「(d)インターネットへの書き込みで人権を侵害された場合についての対応方法・相談窓口の周知をするべきだ」との回答項目は設定していない。

13. 災害と人権

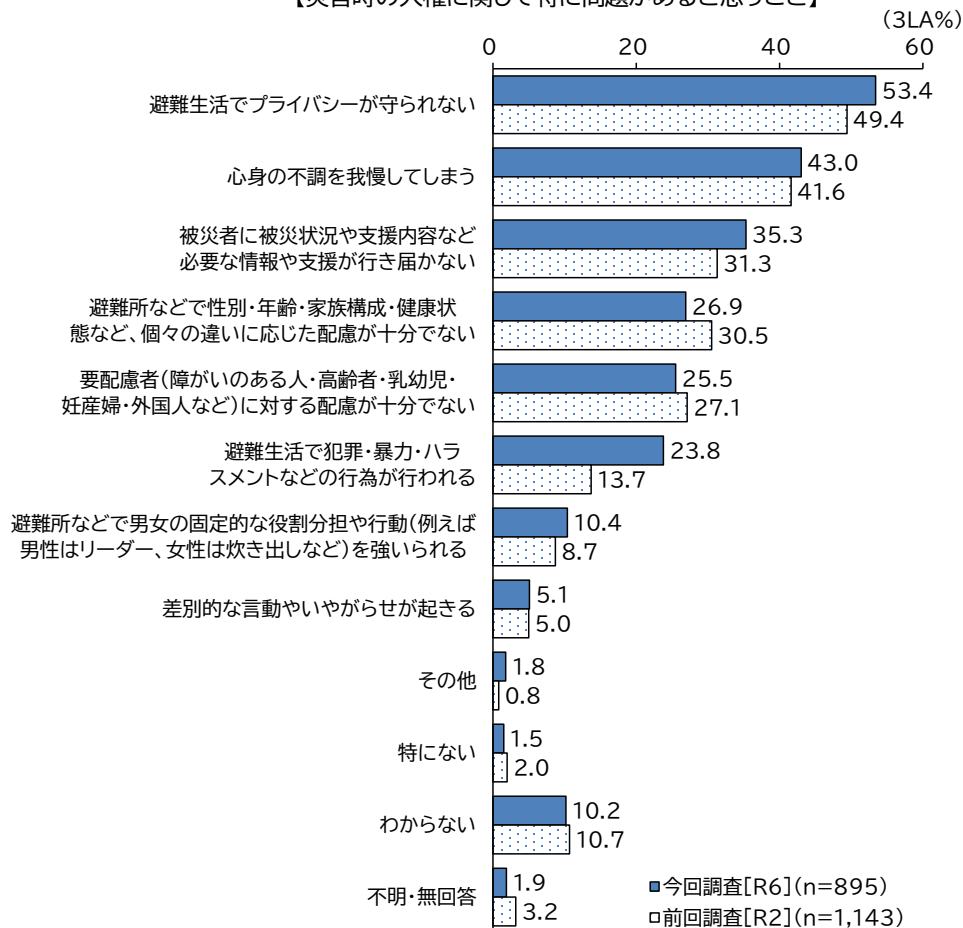
(1)問 28 災害時の人権に関して特に問題があると思うこと

問 28 地震などの災害時における人権に関することで、あなたが特に問題があると思うのは次のうちどれですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 災害時の人権に関して特に問題があると思うことについて、「避難生活でプライバシーが守られない」が 53.4%で最も多く、次いで「心身の不調を我慢してしまう」が 43.0%、「被災者に被災状況や支援内容など必要な情報や支援が行き届かない」が 35.3%となっている。
- 前回調査と比較すると、「避難所などで性別・年齢・家族構成・健康状態など、個々の違いに応じた配慮が十分でない」が 3.6 ポイント少なく、「避難生活で犯罪・暴力・ハラスメントなどの行為が行われる」が 10.1 ポイント、「避難生活でプライバシーが守られない」が 4.0 ポイント、「被災者に被災状況や支援内容など必要な情報や支援が行き届かない」が 4.0 ポイント多くなっている。

【災害時の人権に関して特に問題があると思うこと】

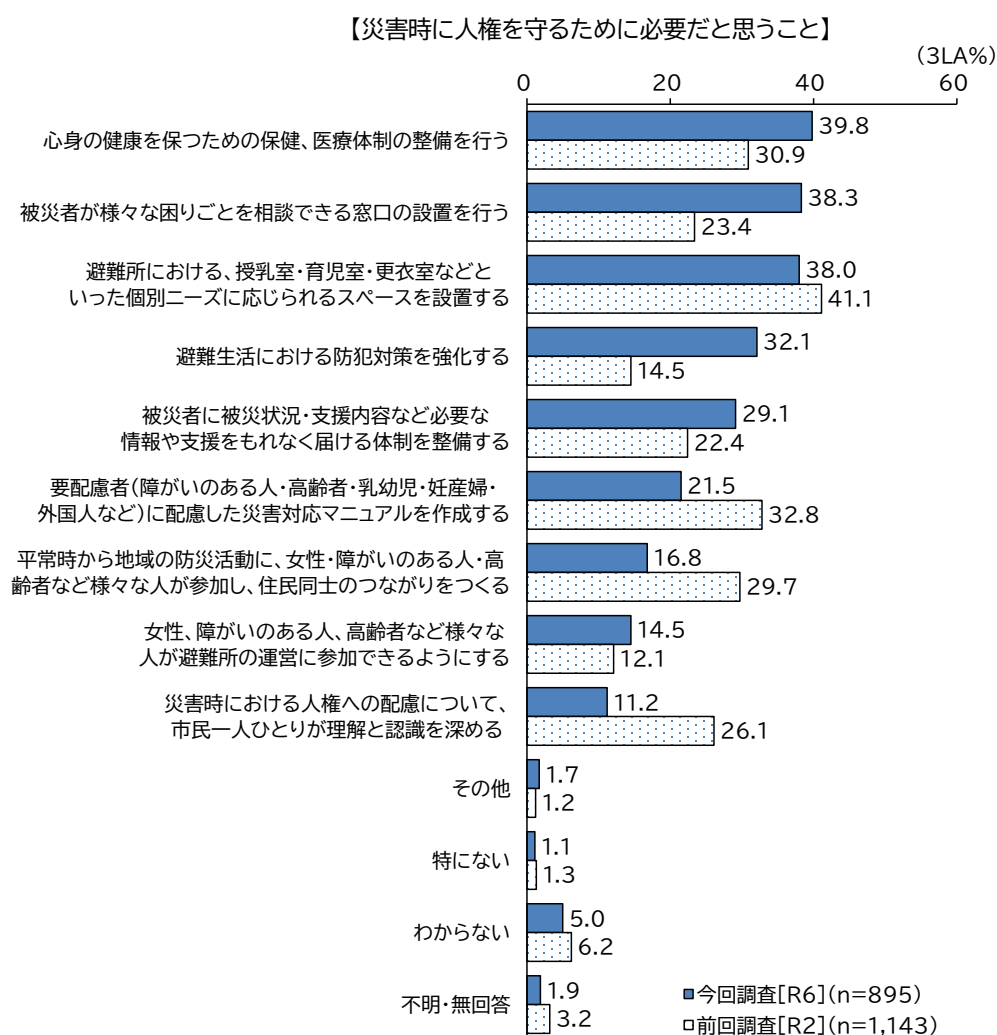


(2)問 29 災害時に人権を守るために必要だと思うこと

問 29 地震などの災害時に人権を守るために、あなたが現在、必要性が高いと思うものは次のうちどれですか。(〇は3つまで)

【全体】

- 災害時に人権を守るために必要だと思うことについて、「心身の健康を保つための保健、医療体制の整備を行う」が 39.8%で最も多く、次いで「被災者が様々な困りごとを相談できる窓口の設置を行う」が 38.3%、「避難所における、授乳室・育児室・更衣室などといった個別ニーズに応じられるスペースを設置する」が 38.0%となっている。
- 前回調査と比較すると、「災害時における人権への配慮について、市民一人ひとりが理解と認識を深める」が 14.9 ポイント、「平常時から地域の防災活動に、女性・障がいのある人・高齢者など様々な人が参加し、住民同士のつながりをつくる」が 12.9 ポイント、「要配慮者(障がいのある人・高齢者・乳幼児・妊産婦・外国人など)に配慮した災害対応マニュアルを作成する」が 11.3 ポイント、「避難所における、授乳室・育児室・更衣室などといった個別ニーズに応じられるスペースを設置する」が 3.1 ポイント少なく、「避難生活における防犯対策を強化する」が 17.6 ポイント、「被災者が様々な困りごとを相談できる窓口の設置を行う」が 14.9 ポイント、「心身の健康を保つための保健、医療体制の整備を行う」が 8.9 ポイント、「被災者に被災状況・支援内容など必要な情報や支援をもれなく届ける体制を整備する」が 6.7 ポイント多くなっている。



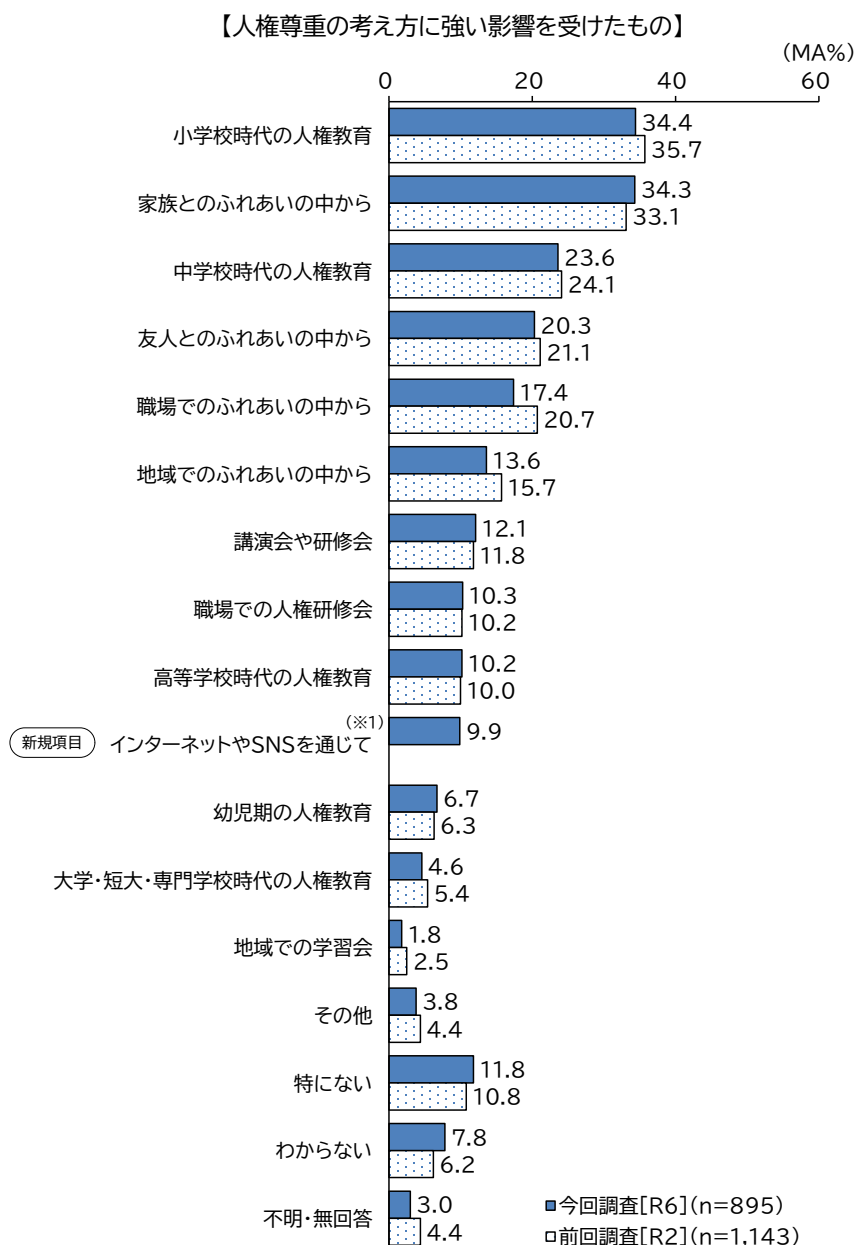
14. 人権尊重の社会の実現に向けた取り組みについて

(1) 問 30 人権尊重の考え方に強い影響を受けたもの

問 30 あなたが、人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思うものは次のうちどれですか。
(○はいくつでも)

【全体】

- 人権尊重の考え方に強い影響を受けたものについて、「小学校時代の人権教育」が 34.4%で最も多く、次いで「家族とのふれあいの中から」が 34.3%、「中学校時代の人権教育」が 23.6%となっている。
- 前回調査と比較すると、「職場でのふれあいの中から」が 3.3 ポイント少なくなっている。



(※1) 前回調査では、「インターネットや SNS を通じて」との回答項目は設定していない。

(2)問 30—1 人権尊重の考え方に強い影響を受けたものの内容

(問 30 で「1」～「13」に○をされた方に)

問 30-1 それはどのような内容でしたか。お構いなし範囲でご記入ください。

- 人権尊重の考え方に強い影響を受けたものの回答については 299 件あり、その内容を要約し分類した結果は、重複を含め 408 件で、以下のとおりである。

【学校での人権教育など 93件】(一部抜粋)

- ・授業での人権教育、道徳授業など
- ・道徳の授業で人の嫌がることはしてはいけないなど学んだ記憶がある
- ・小学校時代の道徳の授業は自分の中での人権教育の基礎になった
- ・道徳の授業で『岡林信康』の曲を聴き、部落差別について学んだ
- ・大学の授業で LGBTQ、犯罪被害者、インターネットにおける人権について講演を聴き学習した
- ・外国人の先生が授業で、ハーフ(half)ではなくハイブリッド(hybrid)と呼んで欲しいと言っていた
- ・小学校で部落差別や他国の文化、障がいのある方との交流を体育館で大々的に学習させてもらった
- ・授業で受けた部落差別について目に見えないことが差別の対象になるのかと衝撃を受けた
- ・授業で部落差別の体験談を聞きに行った

【同和問題(部落差別)から 72件】(一部抜粋)

- ・高校生の時、友達が就職する際に部落差別を受けた。その時に初めて部落のことを知り、人権を考えた
- ・中学校の修学旅行で大阪に行った際、部落出身の方から直接お話を聞いた
- ・今も記憶の中に「同和問題」に関する授業が残っており、差別はいけないという考えの基本になった
- ・部落の人に関わらないよう、気をつけるように言われた
- ・授業で受けた部落差別について目に見えないことが差別の対象になるのかと衝撃を受けた
- ・交際中の相手の母親から「うちは部落やき、一緒にはなれんきね」と言われた
- ・部落差別は現在も根強く残っている内容。結婚の際に意識(注意)するように親族から言われた
- ・地元で部落差別のことは耳にしており、自身の結婚の際にも再燃していたので、やはり気にしている人がいるのだと思った
- ・友人との会話で同和の話になり、泣き出した友達が同和地区の人だった。何も変わらない友人を差別することなんてできない、許されないと思った

【自身のこれまでの経験を通じて 58件】(一部抜粋)

- ・日々生活する中で喜び、悲しみいろいろな感情と共に学習してきたように思う
- ・様々な場所に出向き、自ら感じとった
- ・他の人にいやな思いをさせないようにと育ってきた
- ・小学生の時の純粋な気持ちで話を聞いたことが、大きくなってもそのまま記憶に残りやすい
- ・職場や友人などの人間関係から自然と考えるようになる
- ・自分とは違う考えの意見を聞いた時に納得できた

【家族や友人から 52件】(一部抜粋)

- ・母親から被差別地区に生まれたから差別されると聞かされた
- ・父親から黙っていたら差別は無くならない。声を出していかないと、と教えられた
- ・母親が他人への配慮をする人だった

- ・父親の差別意識が強かったための反面教師にしている
- ・親の価値観が一番影響を受ける
- ・家族の助け合い、団らん、両親の働く後ろ姿から子どもなりに理解していく
- ・障がいのある身内がいるので、自分ごととして考えることができた
- ・妻と人権について話をする中で色々な気づきがあった
- ・子どもが発達障害で不登校のため、子どもの人権について自分なりに考えた
- ・身内が同和地区の人と結婚する際に、自分の親が反対するのを聞き、がっかりした
- ・学校では部落差別はいけないことだと教わったのに、差別する親に納得できなかった

【インターネットやテレビ・映画などから 25 件】(一部抜粋)

- ・テレビの報道やドキュメンタリー、ドラマなど
- ・小学校で映画「橋のない川」を見て子ども心に世の中の不条理を覚えた
- ・ニュースなどを見て自分たちの意見などを話しあった
- ・SNS で様々な立場の人が投稿するポストを見て、自分以外の属性について理解を深めた
- ・「たいせつなきみ」という絵本を通して人権尊重の考えを学んだ
- ・障害児を育てる家族の日々のドキュメントをSNSで観た
- ・インターネットや SNS の発信内容と学校などで学んだこととのギャップ
- ・インターネットの体験などを見て、当事者の気持ちを知った

【講演会・研修会など 21 件】(一部抜粋)

- ・大阪浪速区の太鼓職人に関する研修会
- ・講演会で視覚障害のある方の体験を聞いた
- ・薬害に関する講演会
- ・手話研修

【職場関係 19 件】(一部抜粋)

- ・職場での人権を無視するような言動に憤りを感じたことがある
- ・職場でのハラスメント
- ・障がいのある方たちと一緒に仕事をした
- ・職場で年に1回は、同和問題についての講演＋グループ討議といった研修会があった
- ・職場で差別発言があった際に、差別の具体的な例などを研修で学んだ
- ・大人になると価値観などの修正を行うことは困難であるが、職場の環境が可能に思う
- ・職場に留学生がいたことや外国人が施設の利用をしていたことで

【LGBTQ+に関すること 12 件】(一部抜粋)

- ・知人に LGBTQ+ の人が増えた
- ・LGBT の方と話をした時、まだまだ世間の理解が足りないと感じた
- ・LGBT の人について理解はできるが、実際に身近になった時に平等に対応できるかなど考えた

【地域でのふれあいから 6 件】(一部抜粋)

- ・差別を受けた方たちとの交流
- ・地域の人々の考え方や価値観が子どもの人生に大きな影響を与える

【その他 50件】(一部抜粋)

- ・犯罪被害者やインターネットにおける人権問題、いじめ、不登校
- ・祖父がハンセン病で、親族間で差別を受けたと母から聞いた
- ・小学校の時に HIV について学ぶ授業があり、日常生活では感染しないと聞いた
- ・女性軽視や男尊女卑などの女性の人権について
- ・人の数だけ色々な人や考えがあるため、人と違うからと排除するような考えは持ってはいけない
- ・障がい者の同級生が何人かおり、身近であった分、授業の在り方接し方など、多く考えさせられた
- ・親の育児放棄による子どもの人権
- ・パワハラ・セクハラなどのハラスメント
- ・差別をされている人たちのことを意識せず当たり前のように関わって生活してきた
- ・人との基本的な接し方を幼い頃に学んだら、その後大きく変わることはないと思う
- ・最近是人との距離感が希薄になって、差し障りない付き合い方が主流なので難しい世の中だと思う

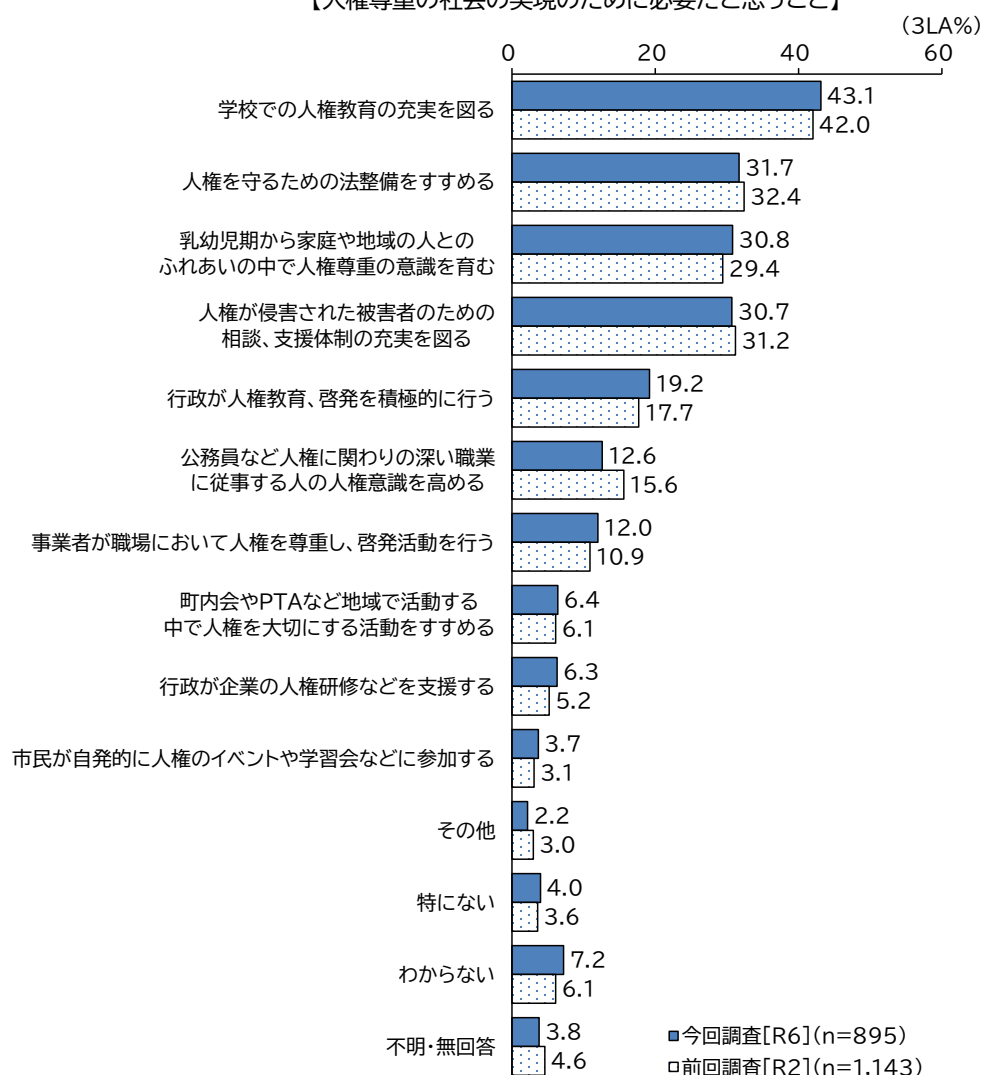
(3)問 31 人権尊重の社会の実現のために必要だと思うこと

問 31 あなたが、人権が尊重される社会を実現するために、今後特に必要だと思うのは次のうちどれですか。
(〇は3つまで)

【全体】

- 人権尊重の社会の実現のために必要だと思うことについて、「学校での人権教育の充実を図る」が 43.1%で最も多く、次いで「人権を守るための法整備をすすめる」が 31.7%、「乳幼児期から家庭や地域の人とのふれあいの中で人権尊重の意識を育む」が 30.8%となっている。
- 前回調査と比較すると、「公務員など人権に関わりの深い職業に従事する人の人権意識を高める」が 3.0 ポイント少なくなっている。

【人権尊重の社会の実現のために必要だと思うこと】



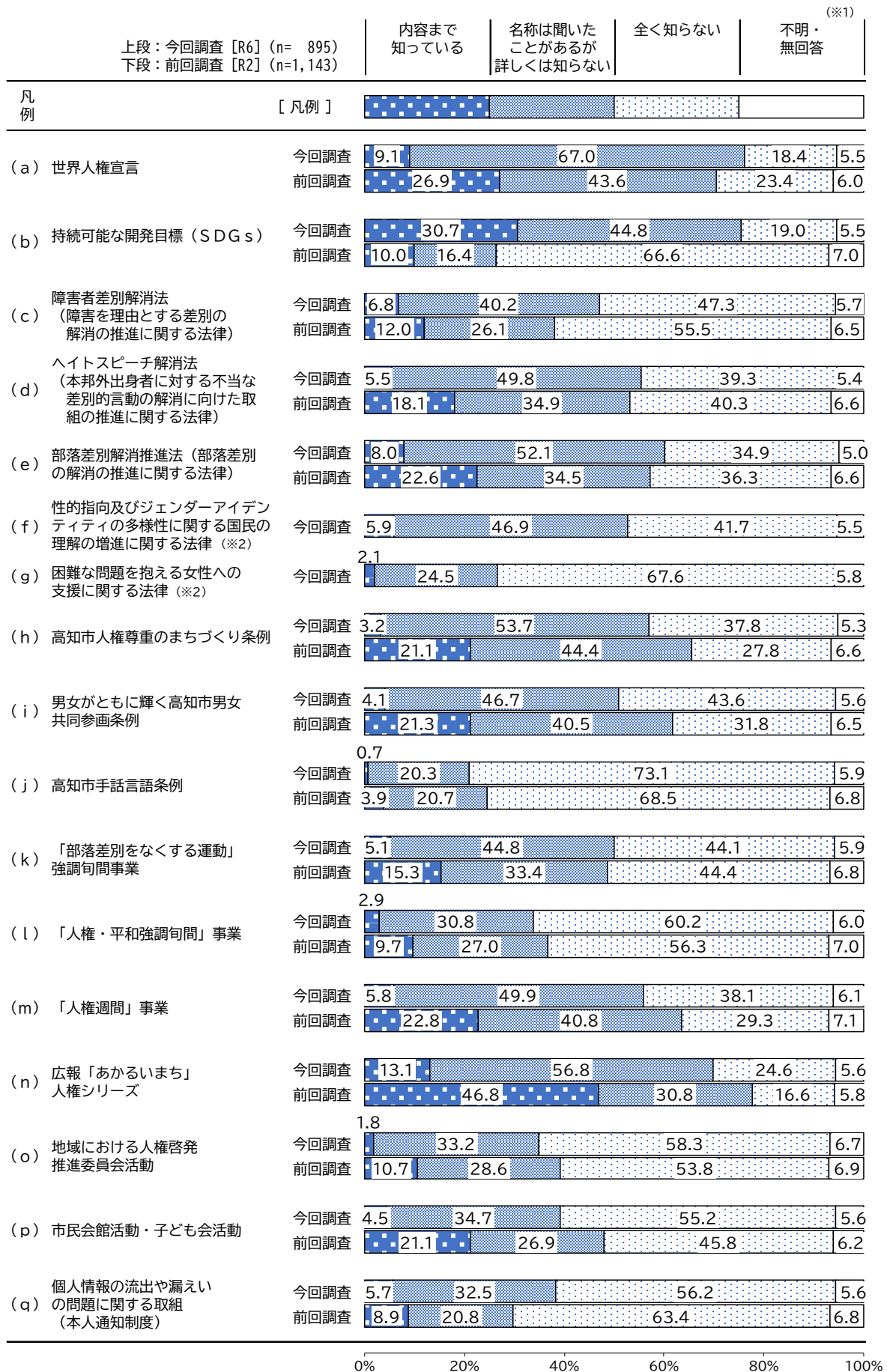
(4)問 32 人権に関する法律や取り組みなどの認知度

問 32 あなたは、次の(a)から(q)の人権に関する宣言(国連)や法律・条令・市の取り組みについてどの程度ご存知ですか。(それぞれに○を1つ)

【全体】

- 人権に関する法律や取り組みなどの認知度について、認知度(「内容まで知っている」「名称は聞いたことがあるが詳しくは知らない」の合計)が最も高いものは「(a)世界人権宣言」(76.1%)、最も認知度が低いものは「(j)高知市手話言語条例」(21.0%)となっている。認知度が 60%以上のものは他に「(b)持続可能な開発目標(SDGs)」「(n)広報『あかるいまち』人権シリーズ」「(e)部落差別解消推進法(部落差別の解消の推進に関する法律)」となっている。
- 前回調査と認知度(前回調査では「知っている」「名称は聞いたことがある」の合計)を比較すると、「(b)持続可能な開発目標(SDGs)」は前回調査より 49.1 ポイント多くなっている。また、「(c)障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)」(8.9 ポイント)、「(q)個人情報の流出や漏えいの問題に関する取組(本人通知制度)」(8.5 ポイント)、「(a)世界人権宣言」(5.6 ポイント)も前回調査より 5 ポイント以上多くなっている。一方、「(i)男女がともに輝く高知市男女共同参画条例」(11.0 ポイント)、「(p)市民会館活動・子ども会活動」(8.8 ポイント)、「(h)高知市人権尊重のまちづくり条例」(8.6 ポイント)、「(m)『人権週間』事業」(7.9 ポイント)、「(n)広報『あかるいまち』人権シリーズ」(7.7 ポイント)は前回調査より 5 ポイント以上少なくなっている。

【人権に関する法律や取り組みなどの認知度】



(※1) 前回調査では、「知っている」「名称は聞いたことがある」「知らない」としていた。

(※2) 前回調査では「(f)性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」「(g)困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」との回答項目は設定してない。

令和6年度 人権に関する市民の意識調査報告書 概要版

発行 高知市市民協働部人権同和・男女共同参画課

〒780-8571 高知市本町五丁目1-45

TEL 088-823-9449

FAX 088-823-9351